

Desktop On-Call *Version 3* 「PCリモコン」

ユーザーズ・ガイド



第 2.0 版 1999 年 7 月

このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。

©Copyright IBM Corp. 1999. All rights reserved.

CT9CEJA

目次

第1章 はじめに	5
本書の構成.....	5
本書の読者.....	5
「PC リモコン」とは、.....	6
Desktop On-Call Version 3.0 「PC リモコン」新機能.....	8
稼動環境.....	12
ホストPC(コントロールされる側).....	12
ゲストPC(コントロールする側).....	13
第2章 インストール	14
Desktop On-Call Version 3 for Windows 「PC リモコン」日本語版.....	15
Desktop On-Call Version 3 for Macintosh 「PC リモコン」日本語版.....	22
Desktop On-Call Version 3 for OS/2 「PC リモコン」日本語版.....	24
Desktop On-Call Version 3 for Windows 英語版.....	29
Desktop On-Call Version 3 for OS/2 英語版.....	36
リモートブラウジング専用版.....	41
第3章 接続	43
様々な接続形態.....	44
オフィスPCをリモートコントロール.....	44
ホームPCをリモートコントロール.....	46
ホームコンピューティング.....	47
ISP経由でリモートコントロール.....	49
ヘルプデスク.....	51
接続ウィザード.....	52
ネットワークカード経由.....	53
モデム経由.....	54
ホストPCがWindows 95、Windows98の場合.....	55
ホストPCがWindows NT 4.0の場合.....	65
ホストPCがOS/2の場合.....	72

pingを用いたTCP/IPのチェック	77
第4章 機能	78
リモートコントロール	78
ブラウザからの接続	78
基本コネクト・モードと拡張コネクト・モード	80
エミュレーションボタン	81
機能制限オプション	84
セッション制御	85
ファイル転送	86
サインド・アップレット認証パネル	86
ファイルをホストPCからゲストPCに転送する。	88
ファイルをゲストPCからホストPCに転送する。	88
ホストPCからゲストPCにディレクトリーごと転送する。	88
ゲストPCからホストPCにディレクトリーごと転送する。	88
新しいディレクトリーを作る (ホストPC・ゲストPC)	88
セキュリティ機能	89
ユーザーIDごとのプロパティの設定	89
オートアップデート	94
接続ウィザード(Windowsのみ)	94
ラUNCH・マップ	95
ラUNCH・マップへのPCの登録方法	96
オート・ラUNCH・マップ	97
オリジナル・ラUNCH・マップ	100
新規作成したHTMLをラUNCH・マップに割当てる	105
リモートブラウジング専用版	106
ゲストPCから入力可能なイベント	107
マウス	107
キーボード	107
出力可能な画面モード	107

ディスプレイ	107
機能一覧	108
第5章 設定パネル	110
メインパネル	110
プロパティパネル	111
ホストPC設定	111
ユーザー設定	112
ラウンチマップ	117
アクセスログ	117
第6章 注意事項	118
技術情報	118
ゲストPCがMac OSで使用する時	118
マルチディスプレイについて	119
全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法	119
ゲストPCから日本語入力をする	119
リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける	119
ブラウザに表示される画面に縦横の色むらが表示される	120
「既にユーザーXXXXにコントロールされています」と表示される	120
「TCP/IPがインストールされていません」と表示される	120
「DHCPサーバーと接続できない」「IP Address を取得できない」と表示される	120
ブラウザにURLを指定しても反応がない	121
「Java.Lang.OutOfMemoryError」と表示して止まる	121
IE使用時、スクロール・バーを使用すると画面表示が乱れることがある。	121
動画再生ウィンドウが正しく表示されないことがある	122
用語集	123
商標	124
特記事項	125

第1章 はじめに

本書は、Desktop On-Call™ Version 3.0 「PC リモコン™」〔以降「PC リモコン」〕を使用するためのマニュアルです。「PC リモコン」を使って、コンピュータをリモート・コントロール（遠隔操作）するための手順や操作方法について説明します。

本書の構成

本書は、次のように構成されています。

第1章、「はじめに」では、「PC リモコン」の紹介、新機能の説明と稼働環境について説明しています。

第2章、「インストール」では、「PC リモコン」を、各プラットフォームにインストールする方法と、英語版をインストールする方法、リモート・ブラウジング専用版をインストールする方法を説明しています。

第4章、「接続」では、「PC リモコン」のネットワーク接続の方法を説明しています。

第3章、「機能」では、「PC リモコン」の機能を説明しています。「接続」では、「PC リモコン」のネットワーク環境と接続の方法を説明しています。

第5章、「設定」では、メインパネル、プロパティ・パネルを解説しています。

第6章、「注意事項」では、「PC リモコン」を使用する上で、注意すべき技術情報や、トラブルの対処の仕方を説明しています。

本書の読者

本書は、読者が次の操作を行えることを想定して記述しています。

- Windows 95/98などのオペレーティングシステムの基本操作については、すでに理解していること
- Netscape® NavigatorなどのWebブラウザの基本操作については、既に理解していること
- インターネットあるいはTCP/IPの基本については、既に理解していること

「PCリモコン」とは

「PCリモコン」は Java を使ったリモートコントロールソフトです。

Desktop On-Call™ Version 3.0「PCリモコン」は、Desktop On-Call Version 2.5 のフォローオン製品です。「PCリモコン™」は、Desktop On-Call Version 3.0 の呼称です。以後「PCリモコン」と表記します。

「PCリモコン」は、ネットワークを経由して離れた場所にあるコンピュータを操作する「遠隔操作(リモート・コントロール)」を実現するソフトウェアです。「PCリモコン」と従来の製品には、ひとつの大きな違いがあります。従来の製品は、手元のコンピュータと遠隔地にある操作される側のコンピュータ(ホスト PC)の両方にリモート・コントロール ソフトウェアをインストールする必要がありました。これに対し、「PCリモコン」は、操作される側のコンピュータ(ホスト PC)にインストールしておくだけで、Web ブラウザさえあればリモート・コントロールが可能となります。

例えば、「自分のオフィスのコンピュータを家から使いたいな」という場合、自分のオフィスのコンピュータに「PCリモコン」をインストールしてください。そうすれば、ホームページにアクセスするような感覚で自分のオフィスのコンピュータにアクセスできます。ブラウザの中にコンピュータの画面が現れ操作できるのです。

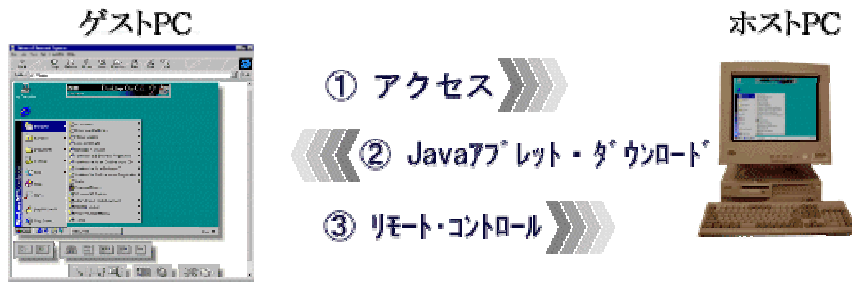
それを可能にしているのは、Java™です。そして、Java はプラットフォームを選びません。すなわち、手元のコンピュータは Windows®にかぎらず、Mac®でも、Unixでも、Java アプレットが動作するブラウザがあれば OK です。

次の3つのステップでブラウザからリモート・コントロールできます。

ブラウザに URL あるいは IP アドレスを入力する

Java アプレットがブラウザにダウンロードされ、ユーザーID、パスワードを入力する。

そして、ブラウザにデスクトップのイメージが現れ、リモート・コントロールが可能になります。



こんなふうに使ってください。

[イントラネット経由で自分の PC にアクセス]

社内で会議やプレゼンテーションの最中に「あっ、あの書類忘れた!」。そんなときでも、会議室の近くにネットワーク接続された PC があれば、ちょっとブラウザを拝借して自分のデスクの PC にアクセスして、必要なデータを参照することができます。

[Web ブラウザから画面を見てアドバイス]

PC の操作や設定がわからない、あるいはトラブルが起きた、そんなとき「PC リモコン」を入れておけば、システム管理者やパソコンの達人に操作を教えてもらったり、メンテナンスを代行してもらうことができます。サーバー管理者にとってもオフィス移動することなく作業できるので、効率化、省力化が図れます。

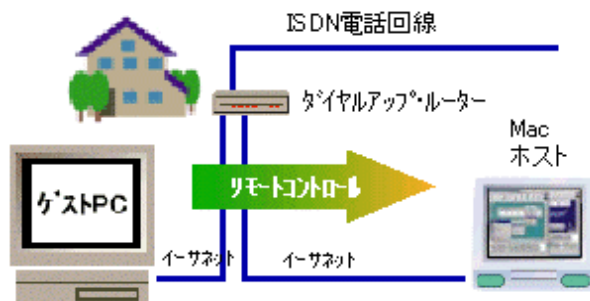
[SOHO 環境で異なる OS 間でもリモート・コントロール]

SOHO(Small Office , Home Office)環境では、いろいろなオペレーティング・システムを使っている場合がよくあります。そんな場合でも、Mac OS、Windows®あるいは OS/2 Warp®マシンを、いかなるプラットフォームのマシン(例えば、Windows、OS/2、MacOS や、Unix マシン)からでも操作できます。

Desktop On-Call Version 3.0 「PCリモコン」新機能

■ Mac®サポート

Macintosh®をホストPCとしてリモート・コントロールできます。



■ セキュリティ機能強化

- SSL(Secure Socket Layer)を用い 全通信データを暗号化

リモート・コントロール・ソフトでは、一端接続が確立すると、ホストPCに対して全ての操作が行えるので、セキュリティに対しては注意が必要です。「PCリモコン」は、SSLを用いてデータ通信を行うことができます。業界標準のRSA Data Security®社の暗号化ロジックを採用しています。通信の内容を暗号化し通信の機密性を保ちます。



- ユーザーIDごとにアクセスレベルを設定

ホストPCに複数のユーザーIDを登録した場合、あるユーザーIDは管理者として「PCリモコン」のプロパティまで変更できる権限を与えたり、また別のユーザーIDには、画面を見るだけで操作は制限する、といった細かなセキュリティ・レベルを設定できます。

- 指示ポインター

あるユーザーIDに画面を見るだけという制限を与えた場合
やリモートブラウジング専用版の場合、手の形の指示ポインタ



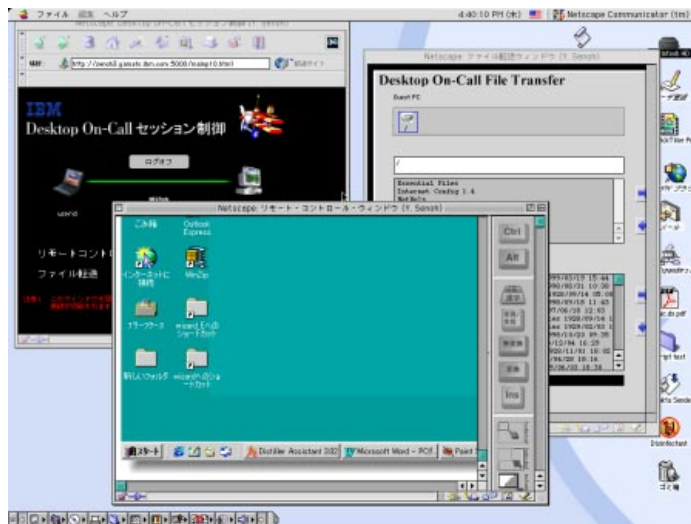
ーがマウスポインターとは別に表示され画面の位置をホストPCに対して指し示すことができます。

- ユーザーIDのパスワードの期限を設定
ユーザーIDごとのパスワードの有効期限を設定できます。
- セッションのタイムリミットを設定
ユーザーIDごとにセッションのタイムリミットを設定できます。

■ 使いやすさの向上

- 複数ウィンドウ

リモートコントロール画面とファイル転送画面を別ウィンドウに表示しファイル転送中でもリモートコントロールが可能になりました。（拡張コネクトモード接続時のみ）



- 拡張コネクト・モードと基本コネクト・モード

「PCリモコン」は、複数ウィンドウなどをサポートするために拡張コネクト・モードを使用します。拡張コネクト・モードはゲストPC側のブラウザに、「Javaスクリプト」や「LiveConnect」のサポートがあることを条件としています。しかし、その条件を満たさないブラウザの場合は、基本コネクト・モ

ードでの接続を試みます。基本コネクト・モードは、リモート・コントロールのみが可能です。(ウィンドウサイズの変更、ファイル転送はできません。)

- ファイル転送 (送受信が可能)

 サインド・Javaアプレット化することにより、ファイル転送送受信が可能となりました。(拡張コネクトモード接続時のみ)

- エミュレーション・ボタンを別枠に表示

 「PCリモコン」は、AltキーやCtrlキーなどゲストPC側で機能してしまうキー、漢字キーなどJavaでサポートされていないキーをエミュレーション・ボタンとしてサポートしています。ホストPC画面をスクロールしても、これらのボタンを押しやすいように、別枠に移しました。(拡張コネクトモード接続時のみ)

- オートアップデート機能



 オートアップデート機能を選択するだけで、ホストPCの「PCリモコン」が最新かどうかを判定し、アップデートモジュールが提供されている場合には、それを適用することにより「PCリモコン」を最新に保つことが出来ます。

- 接続ガイド (Windowsのみ)

 「PCリモコン」は、ブラウザを使ってリモート・コントロールするという特長からOSが提供するネットワーク環境を利用する仕様になっています。このため、OSにネットワーク環境をセットアップする必要があります。接続ウィザードは、ネットワーク環境がセットアップされているかを確認し、なかった場合には、セットアップ方法をガイドします。



- オート・ラUNCH・マップ機能

Desktop On-Call Version 2.5で提供されたラUNCH・マップ機能を強化しています。ラUNCH・マップ機能は、複数のホストPCに簡単にアクセスするために設けられました。Desktop On-Call Version 3.0「PCリモコン」では、新たにオート・ラUNCH・マップ機能が加わりました。



ラUNCH・マップにホストPCを登録するには、IPアドレスを一つ一つ入力することが必要でしたが、オート・ラUNCH・マップは、サブネット内にブロードキャストして自動的に、「PCリモコン」がインストールされているPCをラUNCH・マップとしてリストアップします。ブロードキャストするサブネットは、現サブネット以外にも指定することができます。オート・ラUNCH・マップを使って指定したサブネット内の「PCリモコン」マシンに簡単にアクセスすることができます。

稼働環境

ホスト PC (コントロールされる側)

Desktop On-Call Version 3「PCリモコン」 日本語版

	オペレーティングシステム	キーボード
IBM 製パーソナルコンピュータおよびその互換機 (NEC PC98-NX を含む)	Windows 95/98 日本語版 Windows NT 4.0 Workstation 日本語版 (Intel 版) Windows NT 4.0 Server 日本語版 (Intel 版)	106 キーボード 101 キーボード
	OS/2 Warp Connect 3 日本語版 (WX03006) OS/2 Warp Server 4 日本語版 (Fixpak FX00505, Single PTF JR12308) OS/2 Warp 4 日本語版 (+Fixpak FX00505, Single PTF JR12308) OS/2 Warp for e-business 日本語版	106 キーボード
NEC PC9821	Windows 95/98 日本語版 Windows NT 4.0 Workstation 日本語版 (Intel 版) Windows NT 4.0 Server 日本語版 (Intel 版)	98 キーボード
Apple Macintosh iMac Power Macintosh G3 Power Book G3	MacOS 8 以上のバージョン	Mac キーボード

HDD : 16MB 以上の空き容量が必要 (Windows 版は別途 Boot ドライブに 13MB)

メモリー : 16MB 以上 (32MB 以上を推奨)

CD-ROM ドライブ

注: 109 キーボードは 106 キーボードとして機能します。

注: モートブッキング専用版 上記と同じ稼働環境です。

- ① Windows 95 でモデム経由で使用する場合は、別途「MS Plus」あるいは「ダイヤルアップネットワーク 1.3」等のダイヤルアップサーバー機能を用意する必要があります。
- ① MacOS でモデム経由で使用する場合は、別途「Apple Remote Access Personal Server」等のダイヤルアップサーバー機能を用意する必要があります。

TCP/IP ネットワークに接続していることが条件となります。

注: 電話回線を利用しモデムによるダイヤルアップ接続する場合は、モデム - 電話回線 - モデム上に TCP/IP ネットワークを確立することが必要となります。

Desktop On-Call Version 3 英語版

	オペレーティングシステム	キーボード
IBM 製パーソナルコンピュータおよびその互換機	Windows 95/98 英語版 Windows NT 4.0 Workstation 英語版 (Intel 版) 英語版 Windows NT 4.0 Server 英語版 (Intel 版)	101 キーボード
	OS/2 Warp Connect 3 英語版 (+XR_W030) OS/2 Warp Server 4 英語版+ Fixpak 6) OS/2 Warp 4 英語版 OS/2 Warp for e-business 英語版	101 キーボード

HDD : 16MB 以上の空き容量が必要 (Windows 版は別途 Boot ドライブに 13MB)

メモリー : 16MB 以上 (32MB 以上を推奨)

CD-ROM ドライブ

注:104 キーボードは 101 キーボードとして機能します。

① Windows 95 でモデム経由で使用する場合は、別途「MS Plus」あるいは「ダイヤルアップネットワーク 1.3」等のダイヤルアップサーバー機能を用意する必要があります。

ゲスト PC(コントロールする側)

下記の仕様を満たす Java アプレットが動作する Web ブラウザ

- JDK 1.0以上 (SSLサポートはJDK1.1以上)
- Javaスクリプト 1.2 以上
- LiveConnect

注:上記の機能がない Web ブラウザの場合、基本コネクトモードで接続します。)

なお、稼働を確認済みの Web ブラウザは以下の通りです。

Internet Explorer 4.0 以上

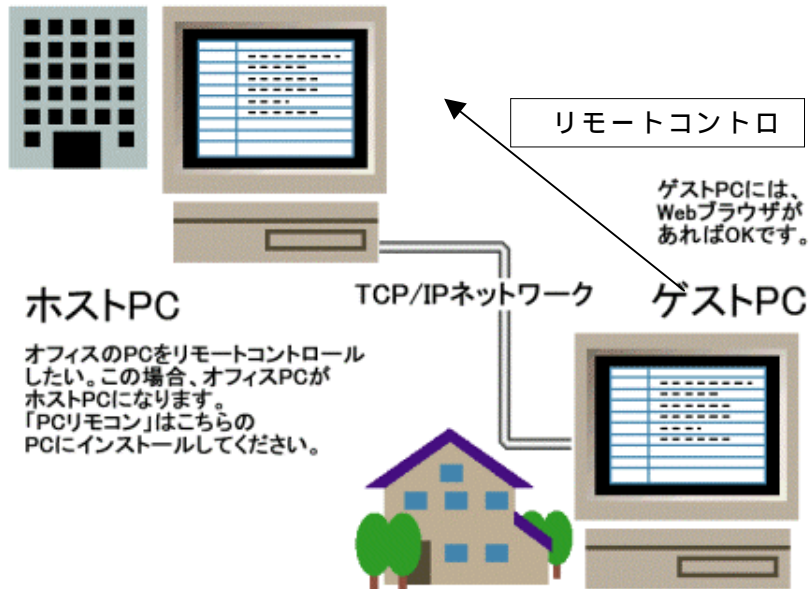
Netscape Communicator 4.0 以上

① Desktop On-Call が必要としている機能 (Java Script, LiveConnect 等) を持たないブラウザから接続を試みた場合、基本コネクトモードで接続されます。基本コネクトモードで接続されるブラウザは以下の通りです。 (エラーメッセージが定義されていません。ページ参照)

- Mac 版 IE4, IE4.5
- OS/2 版 Netscape 4.04
- Netscape 4.6 (全プラットフォーム)

第2章 インストール

Desktop On-Call Version 3 「PC リモコン」は、パーソナルコンピュータをリモート・コントロールするソフトウェアです。使用される構成として、ホスト PC(コントロールされる側)とゲスト PC(コントロールする側)があります。「PC リモコン」はホスト PC(コントロールされる側)にインストールしてください。



「PC リモコン」はホスト PC の OS として、Windows 95/98, Windows NT, OS/2 と MacOS をサポートしています。

- Windows にインストールする場合は、15ページに進んでください。
- MacOS にインストールする場合は、22ページに進んでください。
- OS/2 にインストールする場合は、24ページに進んでください。
- 英語版 Windows にインストールする場合は、29ページに進んでください。
- 英語版 OS/2 にインストールする場合は、36ページに進んでください。
- リモートブラウジング専用版をインストールする場合は、41ページに進んでください。

Desktop On-Call Version 3 for Windows「PCリモコン」日本語版

注:Windows NTへインストールする場合
には、アドミニストレータ権限のあるユーザー
でログインしてインストールしてください



Windows



1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。「PCリモコン」のインストール用のパネルが表示されます。

注:CD-ROMドライブの設定で自動挿入(CD-ROMの挿入をWindowsに通知するオプション)が選択されていないと「PCリモコン」のインストール用のパネルが表示されません。このオプションを選択するには、コントロールパネルの「システム」を開き、「デバイスマネージャ」タブを選択し、CD-ROMの下位CD-ROMドライブのプロパティを開き、「設定」タブを選択し、オプション中の「自動挿入」あるいは「挿入の自動通知」を選択してください。(CD-ROMドライブによって異なることがあります。)再起動が必要です。

2. 「インストールの開始」を選択してください。Install Shieldウィザードが動きます。

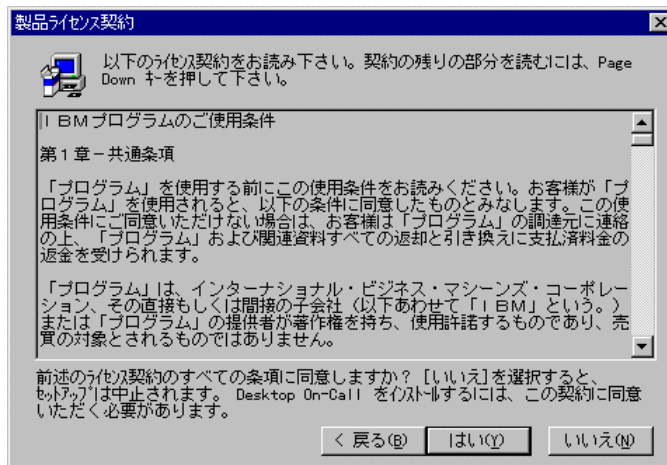
注:CD-ROMドライブの設定で自動挿入(CD-ROMの挿入をWindowsに通知するオプション)が選択されていない場合は、「スタート」->「ファイル名を指定して実行」を選択し、`x:\%auto%\auto3.exe` (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。)と入力し、 OKを選択してメニューパネルからインストールの開始を選択してください。

注:Install Shieldウィザードが100%になった直後インストールが突然終了してしまった場合は、コントロールパネルの「地域」を日本語にして再度インストールしてみてください。

ロ パネルが表示され「ようこそ」パネルが表示されます。



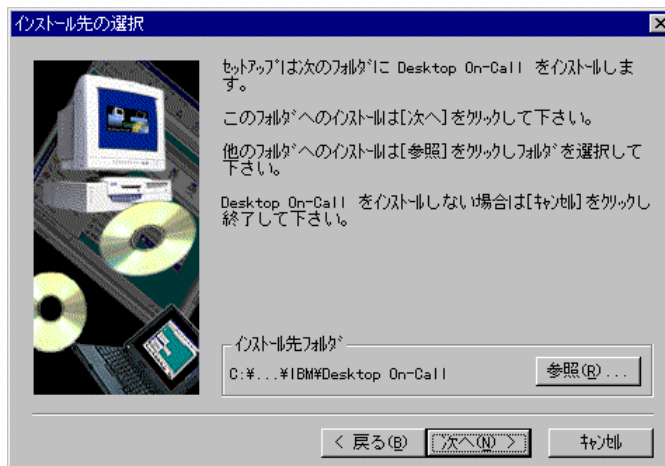
3. 「次へ」を選択してください。



「製品ライセンス契約」ダイアログが表示されます。

4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「はい」を選択します。同意しない場合は「いいえ」を選択します。「はい」を選択した場合は、セットアップが続行されます。「いいえ」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

インストール先の選択パネルが表示されます。



5. 表示されているディレクトリでよければ「次へ」を選択してください。別のディレクトリにインストールする場合は「参照」を選択しフォルダを指定してください。

「セキュリティ」パネルが表示されます。



6. ここで接続時にユーザーIDとパスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーIDとパスワードを要求する場合は、「はい」を選択して「次へ」を選択してください。要求しない場合は、「いいえ」を選択し「次へ」を選

択して8番に進んでください。（インストール完了後も、追加設定、削除等行うことができます。）

「セキュリティ」パネルでない」を選択した場合は、ユーザーID、パスワードを入力するパネルが表示されます。



7. ユーザーIDとパスワードを入力して「次へ」を選択してください。

「他のHTTPデーモン」パネルが表示されます。



8. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「いいえ」を選んで「次へ」を選択し10番へ進んでください。

はい」を選択した場合は、「HTTP ポート番号」パネルが表示されます。



注例えは、ホストPCをWWWサーバー/Webサーバー等のインターネットホームページサーバーとして運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号が重複しないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これと重複しないよう5000~65535のポート番号を指定して下さい。

9. 「次へ」を選択してください。

「プログラムの自動実行」パネルが表示されます。



10. システム起動時に、「PCリモコン」サーバーを自動始動させる場合は、

「はい」にマークし「次へ」を選択してください。

「プログラムフォルダの選択」パネルが表示されます。



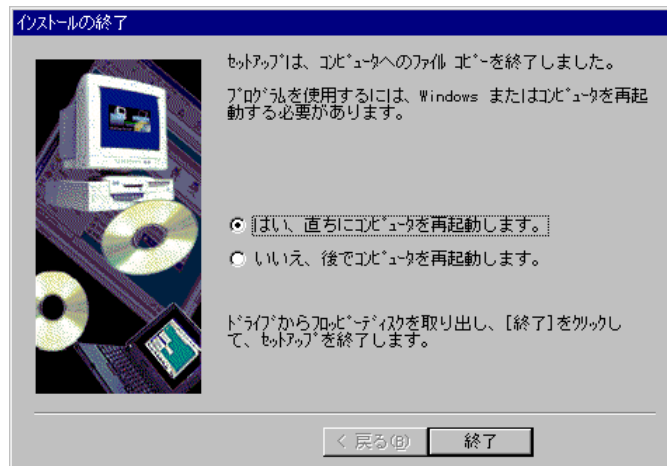
11. プログラムを格納するフォルダ名を指定します。よければ、「次へ」を選択してください。

「ファイルコピーの開始」パネルが表示されます。



12. 現在の設定を確認してください。よければ、「次へ」を選択してください。プログラムのコピーが始まります。

以下の「インストールの終了」パネルが表示されます。



13. 「終了」を選択してください。インストール終了後、システムの再起動が必要です。

これでインストールは完了しました。

Desktop On-Call Version 3 for Macintosh「PCリモコン」日本語版

1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2. CDのフォルダーを開いてください。
3. Desktop On-Callセットアップを実行してください。
4. 「実行」を選択してください。
5. 同梱の「プログラムのご使用条件」および「ライセンス情報」をお読みください。その上で、同意して下さる場合は、「はい」を選択してください。「いいえ」を選択した場合は、インストールは終了します。

Mac OS



6. インストール先フォルダーを選択してください。



7. ファイルのコピー終了後、システムを再起動してください。

これでインストールは完了した。ユーザー ID とパスワードの設定を以下の要領で行ってください。

1. インストールしたフォルダーを開いてください。
2. 「Desktop On-Call」を開いてください。
3. 「プロパティ」を選択してください。
4. ユーザー設定タブをクリックしてください。
5. 「セキュリティをチェックする」を選択してください。
6. 「ユーザーIDの追加」を選択してください。
7. ユーザーID、およびパスワードを入力し、「OK」を選択してください。
8. 「OK」を選択してください。
9. 「Desktop On-Call」パネルで「接続許可」を「OK」を選択してください。

IP アドレスをコントロールパネル」 - 「TCP/IP」を選択して設定してください。

これで、接続待ち状態になります。

Desktop On-Call Version 3 for OS/2「PCリモコン」日本語版

1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、
CD-ROMドライブに挿入します。

OS/2



2. OS/2コマンド・プロンプトを開い
てください。

3. x:¥INSTALL.EXEと入力しOKを選択してください。(x:は、実際にメディア
を挿入したドライブを指定します。)

「PCリモコンの 導入とライセンス情報」ダイアログが表示されます。

4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「継続」を選択します。
同意しない場合は「取消」を選択します。

継続を選択した場合は、セットアップが継続され、「導入 - 確認」パネルが表示されます。

取消を選択した場合は、セットアップが中止されます。

5. 「了解(O)」を選択してください。

導入 - ディレクトリー」パネルが表示されます。

6. 「PCリモコン」を選択し、表示されているディレクトリーでよろしければ
「導入(I)...」を選択してください。別のディレクトリーにインストールし
たい場合は、導入先ディレクトリーを入力してください。

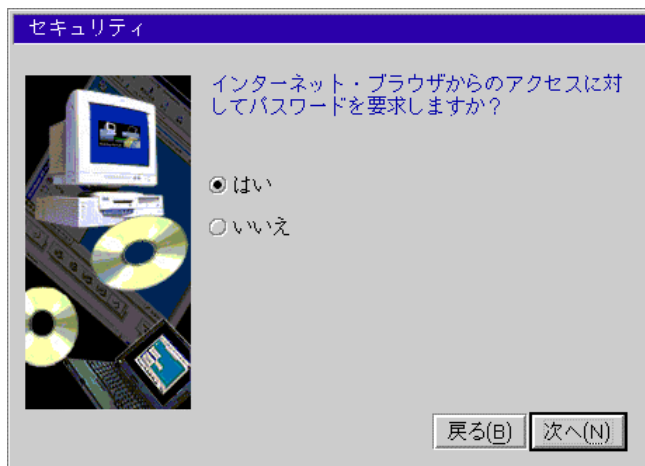
ファイルのコピーが開始されます。

「PCリモコンの 設定」の パネルが表示されます。



7. 「次へ(N)」を選択してください。

「セキュリティ」パネルが表示されます。



8. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「はい」を、要求しない場合は、「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。

「セキュリティ」パネルで「はい」を選択した場合は、ユーザーID、パスワードを入力するパネルが表示されます。

ID, パスワード

インターネット・ブラウザからこのマシンにアクセスするためには、ID とパスワードが必要です。

ID:

パスワード:

パスワードの確認:

戻る(B) 次へ(N)

9. ユーザーID、パスワードを入力して「次へ」を選択してください。

「他の HTTP デーモン」のパネルが表示されます。

他の HTTP デーモン

他の HTTP デーモン(www サーバ)を同時に使用しますか？

はい

いいえ(通常はこちらを選択してください)

戻る(B) 次へ(N)

10. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「いいえ」を選んでください。

例えば、WWWサーバー(ホームページサーバー等として運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号がわからないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これとわからないよう例えば、5000~65535のポート番号を指定して下さい。



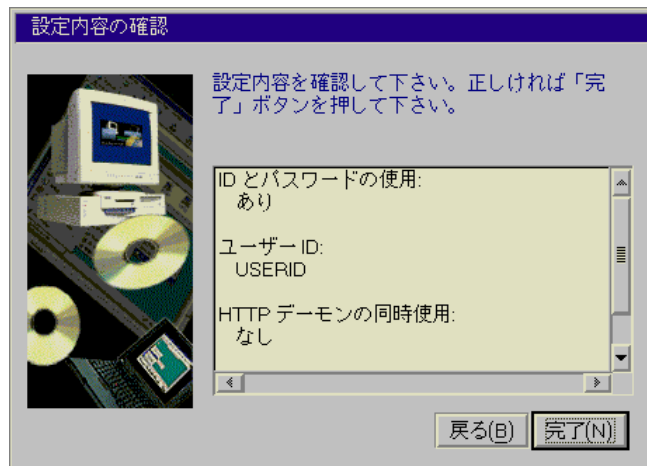
プログラムの「自動実行」パネルが表示されます。

11. 「次へ」を選択してください。



12. システム起動時に、「PCリモコン」サーバーを自動始動させる場合は、「はい」にマークし「次へ」を選択してください。

設定内容の確認パネルが表示されます。



13. 完了を選択してください。

導入および保守のパネルが表示されます。

14. 「了解」を選択してください。

これでインストールは完了しました。システムを再起動させてください。

Desktop On-Call Version 3 for Windows 英語版


英語版の Windows 95/98 又は、
Windows NT マシンをリモートから
インストールしたい場合は、英語版 PC リモ
コンが、CD-ROM の %english.win ディレ
クトリーにありますので、以下の要領でイン
ストールしてください。



注: Windows NT をインストールする場合には、アドミニストレータ権限のあるユーザーで
ログインしてインストールしてください。

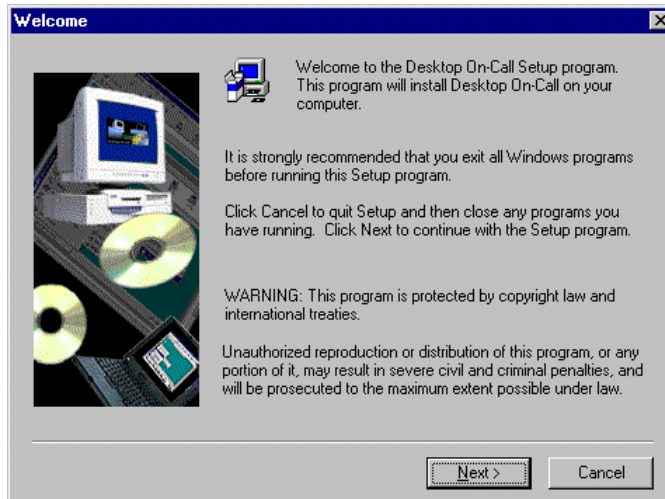
1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。 インス
トール用のパネルが表示されます。
2. 「English」を選択してください。
3. 「Install」を選択してください。

注: CD-ROM ドライバーの設定で自動挿入 (CD-ROM の挿入をWindows に通知する オプ

ション) が選択されていない場合は、 Start - Run ... を選択し

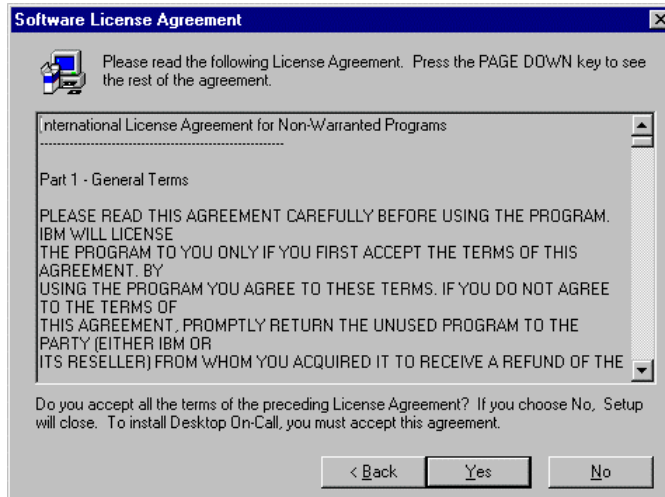
x: %english.win %setup.exe (x: は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています) と入
力し OK を選択してメニューパネルからインストールの開始を選択してください。
Install Shield ウィザードが動きます。

□ パネルが表示され「Welcome」パネルが表示されます。



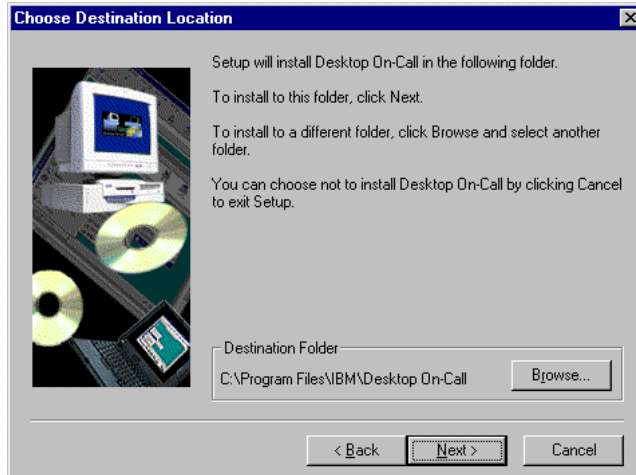
4. 「Next」を選択してください。

「Software License Agreement」ダイアログが表示されます。



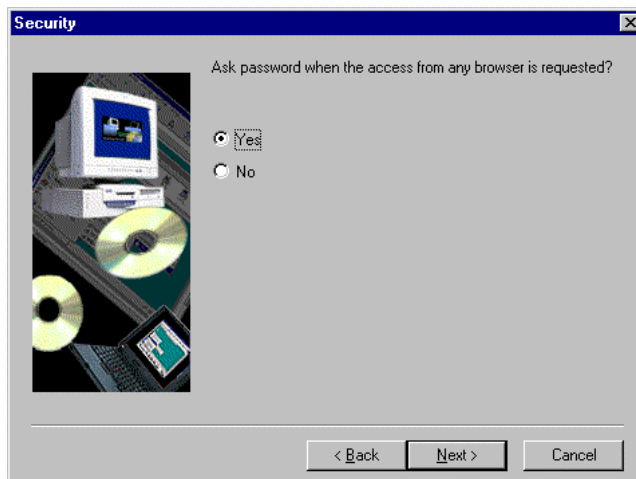
5. Software License Agreementに同意する場合は「Yes」を選択します。同意しない場合は「No」を選択します。「Yes」を選択した場合は続行します。「No」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

「Choose Destination Location」パネルが表示されます。



6. 表示されているディレクトリーでよければ「Next」を選択してください。別のディレクトリーにインストールしたい場合は「Browse...」を選択しフォルダを指定してください。

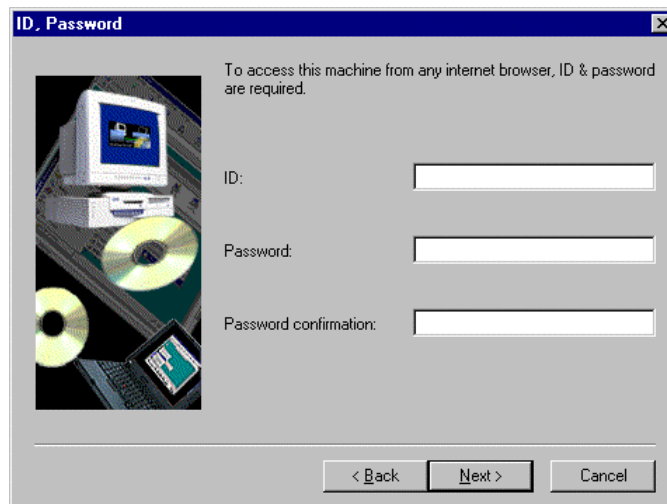
「Security」パネルが表示されます。



7. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「Yes」を選択してください。要求しない場合は、「No」を選択し「Next」を選択して「ID,Password」

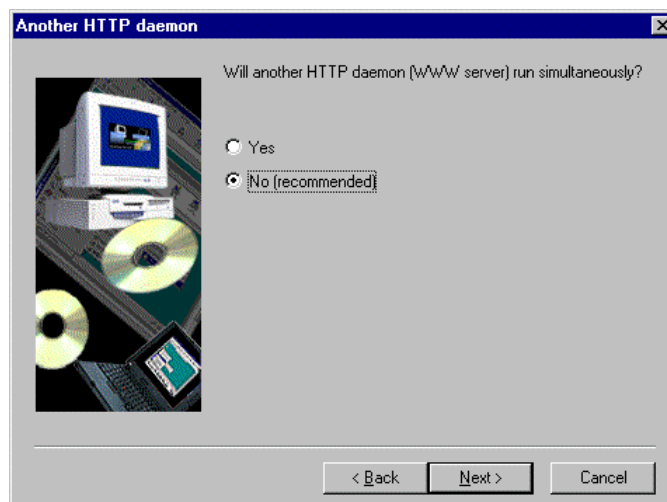
のパネルをスキップしてください。（インストール完了後も、追加設定、削除等行えます。）

「Security」パネルで「Yes」を選択した場合は、「ID,Password」パネルが表示されます。



8. ユーザーID、パスワードを入力して「Next」を選択してください。

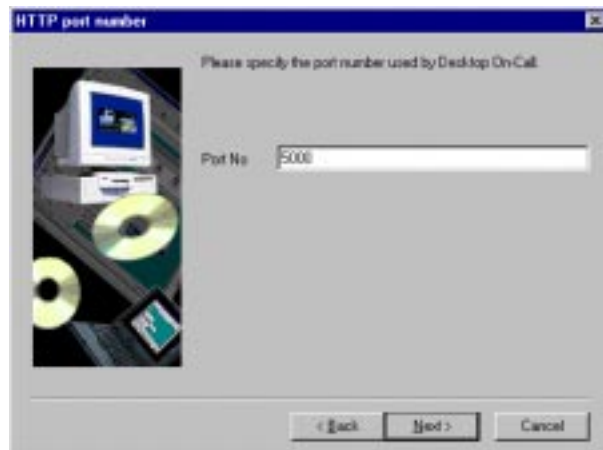
「Another HTTP daemon」パネルが表示されます。



9. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「No」を選んで「Next」を選

択してください。

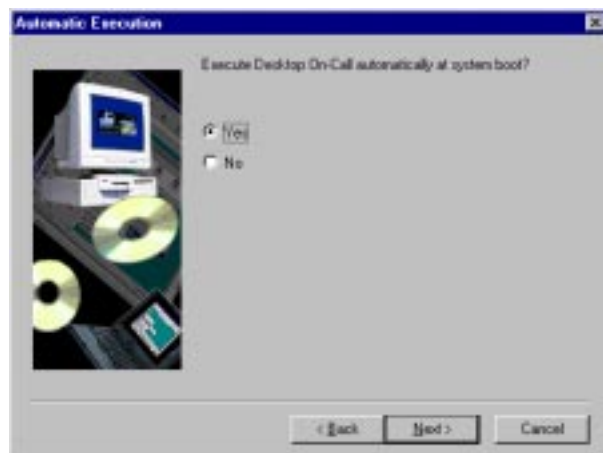
「Yes」を選択した場合は、「 HTTP port number」パネルが表示されます。



注：例えば、WWWサーバー(Webサーバー等のインターネットホームページサーバー)として運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号が異なるよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これと異なるよう、5000～65535のポート番号を指定してください。

10. 「Next」を選択してください。

「Automatic Execution」パネルが表示されます。



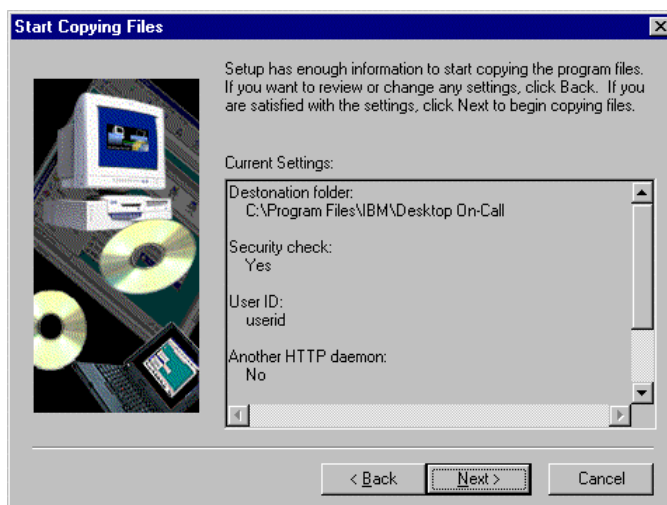
11. システム起動時に、「PCリモコン」サーバーを自動始動させる場合は、「Yes」にマークし「Next」を選択してください。

「Select Program Folder」パネルが表示されます。



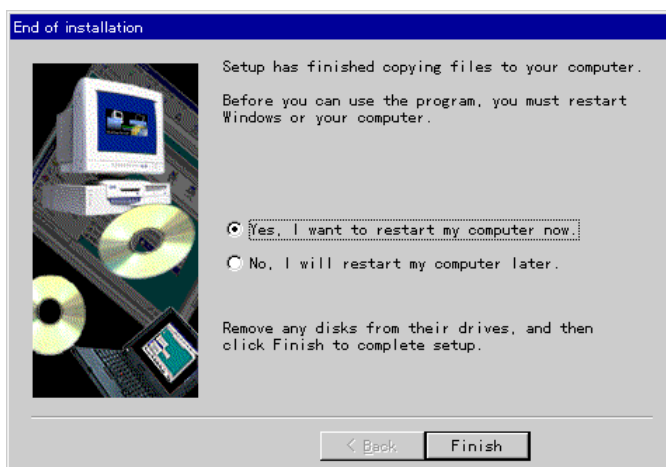
12. プログラムを格納するフォルダー名を指定します。よろしければ、「Next」を選択してください。

「Start Copying Files」パネルが表示されます。



13. 現在の設定を確認してください。よろしければ、「Next」を選択してください。プログラムのコピーを開始いたします。

「End of installation」パネルが表示されます。



14. 「Finish」を選択してください。終了後、システムの再起動が必要です。

これでインストールは完了です。

Desktop On-Call Version 3 for OS/2 英語版

英語版の OS/2 マシンをリモートコントロールする場合は、¥english.os2 にあるモジュールを以下の要領でインストールしてください。

1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、
CD-ROMドライブに挿入します。
2. OS/2コマンド・プロンプトを開い
てください

OS/2



3. x:¥english.os2¥INSTALL.EXEと入
力しOKを選択してください。(x:は、実際メディアを挿入したドライブを
指定します。)

「Desktop On-Call Installation」と「Welcome」ダイアログが表示されます。

4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「Continue」を選択しま
す。同意しない場合は「Cancel」を選択します。

「Continue」を選択した場合は、セッアップが 続行され、「Install」パネルが表示されます。

「Cancel」を選択した場合は、セッアップは 中止されます。

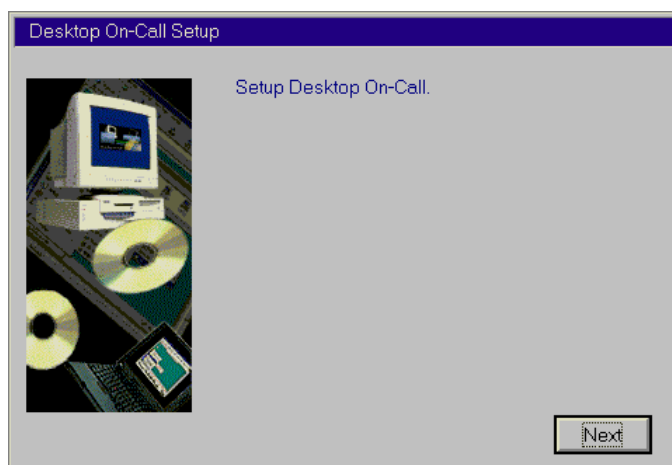
5. 「OK」を選択してください。

「Install - directories」パネルが表示されます。

6. 「Desktop On-Call」を選択し、表示されているディレクトリーでよろしけ
れば「Install...」を選択してください。別のディレクトリーにインストール
したい場合は、導入先ディレクトリーを入力してください。

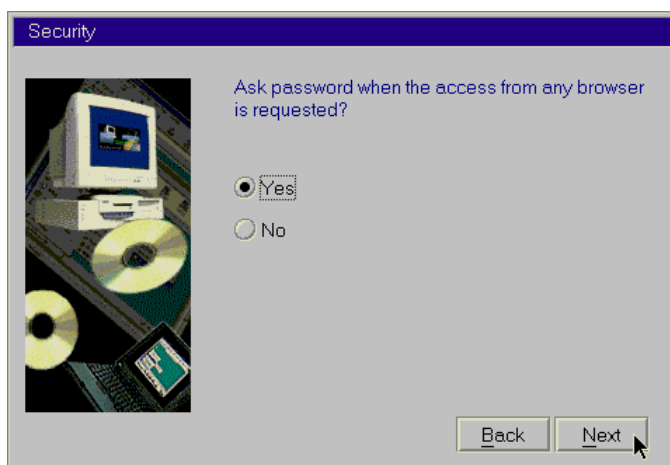
ファイルのコピーが 開始されます。

「Desktop On-Call Setup」パネルが表示されます。



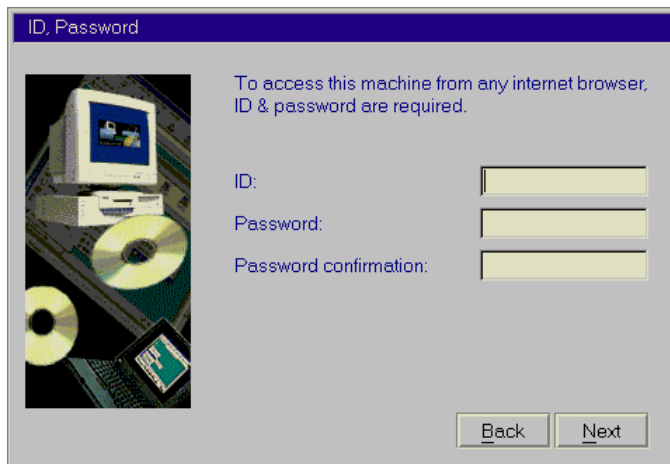
7. 「Next」を選択してください。

「Security」パネルが表示されます。



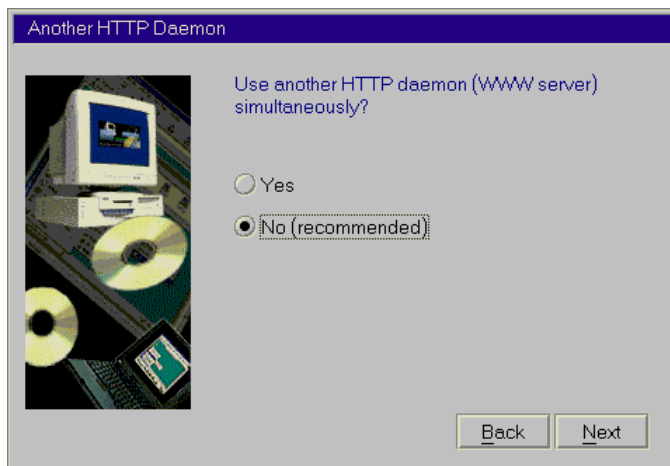
8. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「Yes」を、要求しない場合は、「No」を選択し「Next」を選択してください。

セキュリティパネルで「Yes」を選択した場合は、「ID, Password」パネルが表示されます。



9. ユーザーID、パスワードを入力して「Next」を選択してください。

「Another HTTP Daemon」パネルが表示されます。



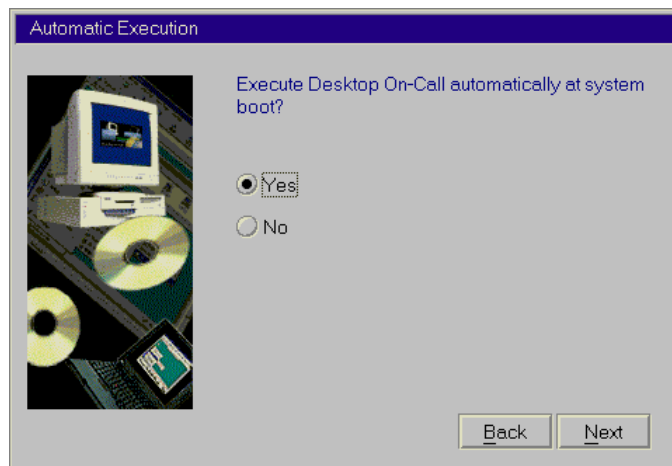
10. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「No」を選んでください。

例えば、WWWサーバー（ホームページサーバー等として運営している場合は、HTTPデーモンの Port Number がつかないように調整する必要があります。通常の WWWサーバーのポート番号は、80 になっています。これとつかないように例えば、5000~65535 のポート番号を指定して下さい。



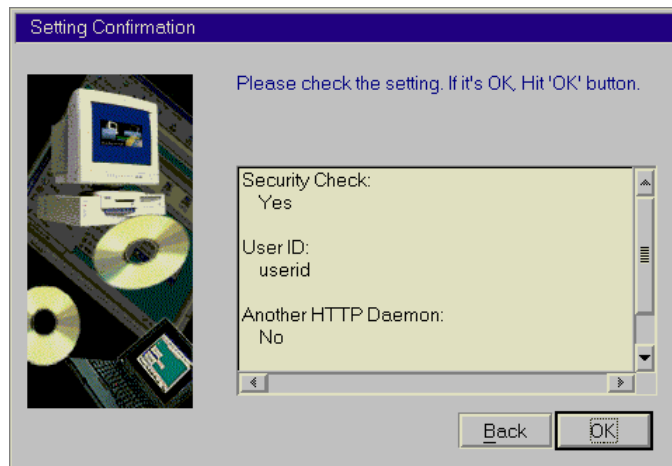
11. 「次へ」を選択してください。

「Automatic Execution」パネルが表示されます。



12. システム起動時に、Desktop On-Callを自動始動させる場合は、「Yes」にマークし「Next」を選択してください。

「Setting Confirmation」パネルが表示されます。



13. 「OK」を選択してください。

「Installation and Maintenance」パネルが表示されます。

14. 「OK」を選択してください。これでインストールは完了しました。システムを再起動させてください。

リモートブラウジング専用版

リモート・ブラウジング専用版とは、デスクトップの状態をブラウザで見ることのできる監視のみ(View only)の機能だけに絞った「PC リモコン」です。セキュリティの観点から、監視目的のみ（操作はできない）で使いたい場合にインストールしてください。なお、インストール後は、設定等一切変更できません。

リモートブラウジング専用版の場合、手の形の指示ポインターがマウスポインターとは別に表示され、画面の位置を指示することができます。



日本語Windows版のインストール

CD-ROM の¥VIEWONLY.WIN ディレクトリーにあります。インストール手順は、通常の「PC リモコン」とほぼ同じです。

1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。

2.  スタート - 「ファイル名を指定して実行…」を選択します。

x:¥viewonly.win¥setup.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。) と入力しOKを選択してください。

3. 15ページのステップ2以降を参照してください。

インストールが完了すると「PC リモコン」 リモートブラウジングというメニューが登録されます。

日本語S/2 Warp版のインストール

1. 「PCリモコン」のCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2. コマンド・プロンプトを開きます。
3. x:\¥viewonly.os2¥install.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。) と入力しEnterを押してください。
4. 24ページのステップ4以降を参照してください。

インストールが完了すると「PCリモコン」リモートブッキングというアイコンが「PCリモコン」フォルダに登録されます。

① リモートブッキング専用版をインストールした場合インストール後通常版に戻したり、設定を変更することはできません。設定を変更したい場合は、一端リモートブッキング専用版をアンインストールし、通常版を再度インストールしてください。

第3章 接続

「PC リモコン」が利用できるネットワークの接続形態には様々なものがありますが「PC リモコン」の設定としてはネットワーク・カード経由とモデム経由の2種類に大別することができます。まず、「様々な接続形態」(44ページ)を参照して、お客様のネットワークの接続形態がネットワーク・カード経由か、モデム経由かを判定しネットワーク設定を行ってください。

ネットワーク・カード経由の設定は、53ページです。

モデム経由の設定は54ページです。

また、ホスト PC が Windows の場合は、接続ウィザードを利用すると、ウィザード形式で設定を進めていくことができます。(52ページ参照)

様々な接続形態

オフィス PC をリモートコントロール

- アナログ電話回線を使用しモデム接続



モデム経由の設定を行ってください。



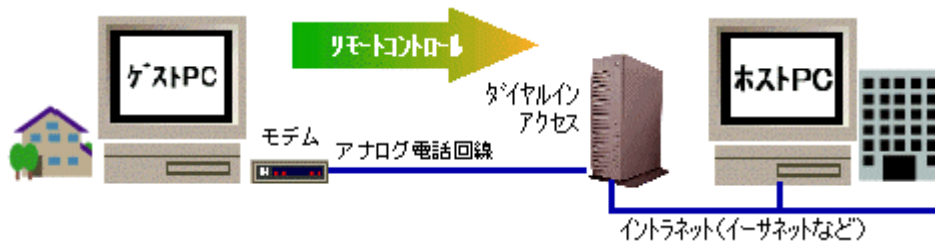
モデム経由の設定を行ってください。

- ISDN電話回線を使用しTA(ターミナルアダプタ)接続



モデム経由の設定を行ってください。TA(ターミナルアダプタ)の設定は、TA(ターミナルアダプタ)のマニュアルを参照してください。

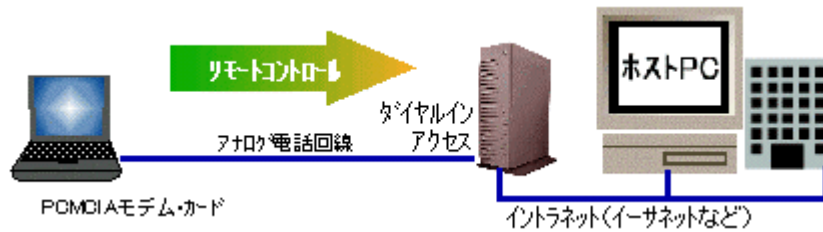
■ ダイヤルインアクセスサーバー経由で接続



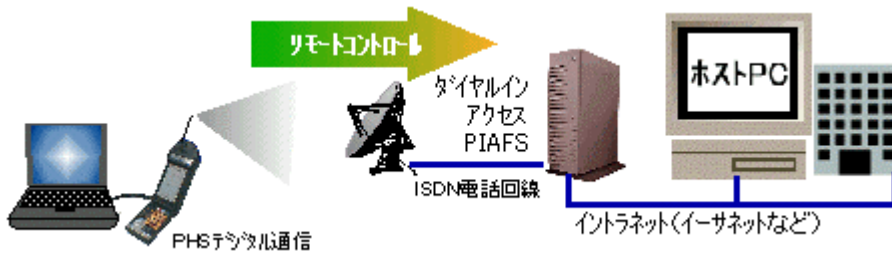
ネットワークカード経由の 設定を行って下さい。



ネットワークカード経由の 設定を行って下さい。

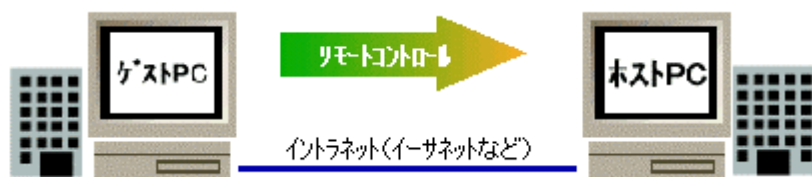


ネットワークカード経由の 設定を行って下さい。



ネットワークカード経由の 設定を行って下さい。

■ インtranet経由接続



インtranet経由接続は、ネットワークカード経由の設定を行ってください。

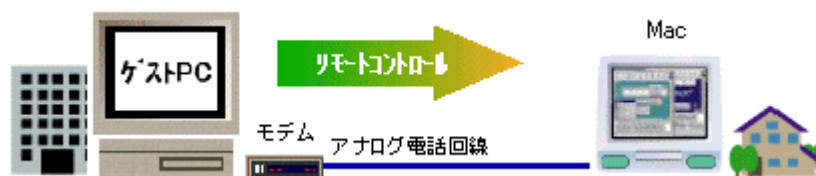
ホームPCをリモートコントロール

■ アナログ電話回線を使用しモデム接続



モデム経由の設定を行ってください。

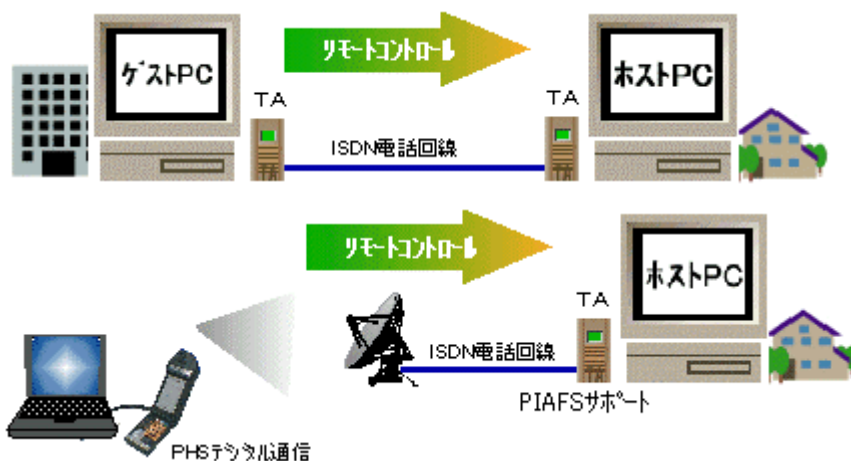
■ アナログ電話回線を使用しMacに内蔵モデム接続



重要:MacをホストPCとしてモデム経由で使用するには、Apple Remote Access(ARA)などのダイヤルアップサーバー機能を別途用意する必要があります。

Apple Remote Access(ARA)とダイヤルアップサーバーの設定に関してはMacOS情報フォルダのARAユーザーガイド等を参照してください。

■ ISDN電話回線を使用しTA(ターミナルアダプタ)接続



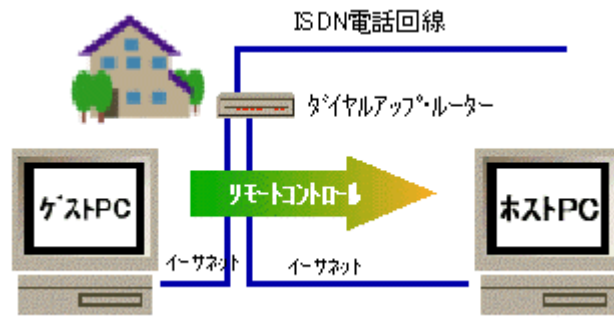
モデム経由の設定を行ってください。TA(ターミナルアダプタ)の設定は、TA(ターミナルアダプタ)のマニュアルを参照してください。

ホームコンピューティング

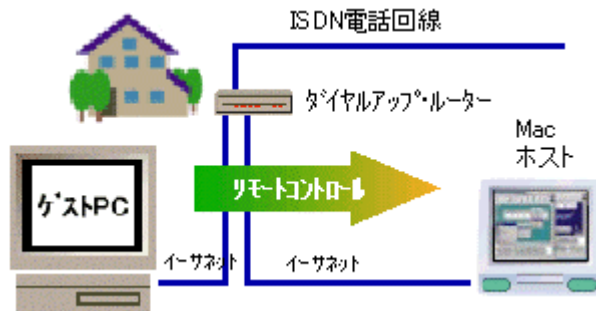


ホストPCにイーサネットネットワークカードが装着してあれば、iMacとクロスケーブルでつなぐことができます。

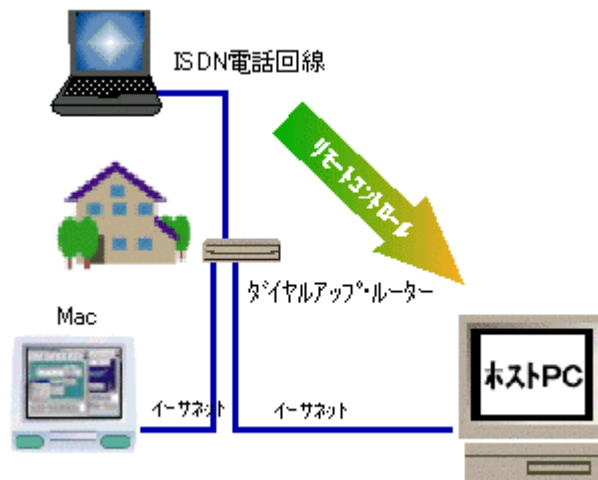
ネットワークカード経由の設定を行ってください。



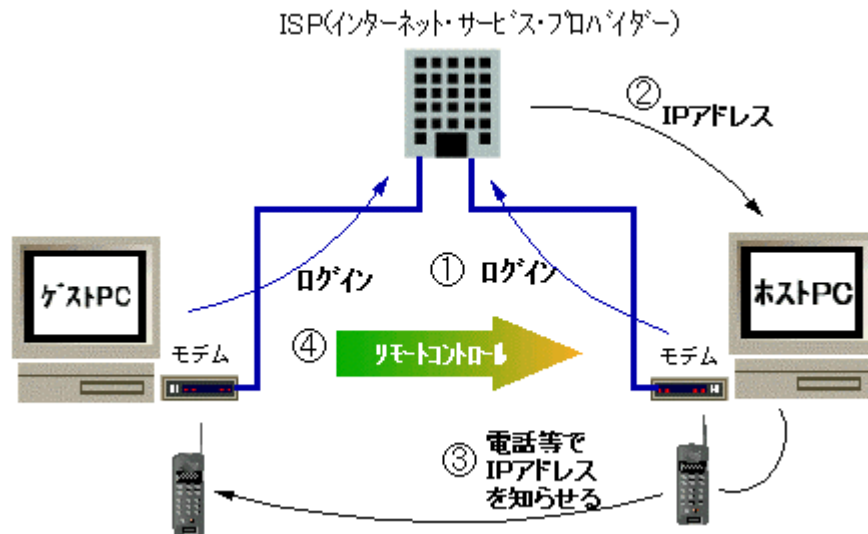
ルーター経由の場合は、ネットワークカード経由の設定を行ってください。



ルーター経由でPCとMacを接続の場合は、ネットワークカード経由の設定を行ってください。また、ルーターを受信可に設定すれば、下図のように外部からのリモートコントロールも可能です。



ISP 経由でリモートコントロール

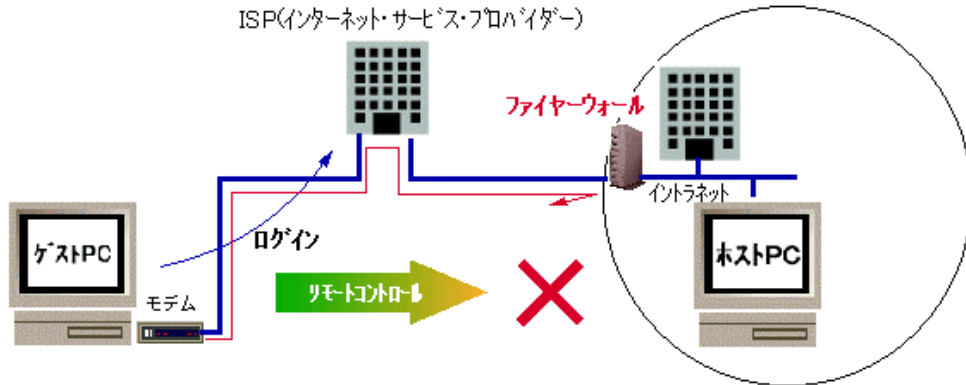


同じインターネットサービスプロバイダー (ISP)に加入している友人に、インターネット経由でリモートアクセスしてもらうには以下の手順で行うことができます。

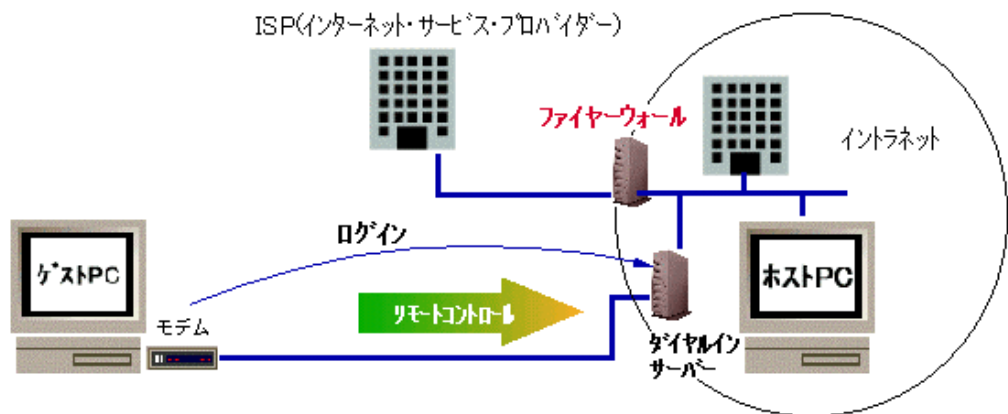
1. インターネット・サービス・プロバイダー (ISP)にログインする。
2. ログインの際、IPアドレスが、アサインされるので、メモする。
3. 友人にそのIPアドレスを電話、e-mail等で知らせる。
4. 友人がブラウザ上でそのIPアドレスを入力し、アクセスする。

① 異なるインターネットサービスプロバイダー (ISP)間でも理論的には接続できるはずですが、セキュリティ的観点からISP間接続を許していないインターネットサービスプロバイダー (ISP)もあります。

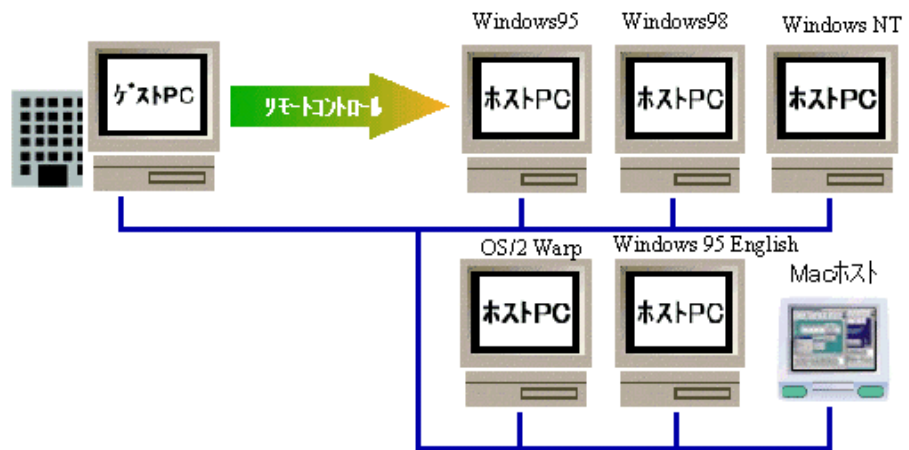
家からインターネットサービスプロバイダー（ISP）に接続し、インターネット経由でイントラネットに接続することは、ファイアーウォールを越えてリモートコントロールを行うことになり、そのため、Desktop On-Call Version 3.0「PCリモコン」は、これをサポートしていません。



この場合は、下図のようにファイアーウォール内にダイヤルアップサーバーを設けて接続することをお勧め致します。



ヘルプデスク



様々な OS のユーザーもブラウザから状況を把握しヘルプすることができます。


イントラネット環境では、ネットワークカード経由の設定を行ってください。

接続ウィザード

Host PC Network Setting



ホスト PC が Windows 95, Windows 98, Windows NT の場合は、接続ウィザードを利用することができます。接続ウィザードでは、ホスト PC のネットワーク環境を確認し、されていなかった場合には、セットアップ方法をガイドします。以下の手順で操作してください。

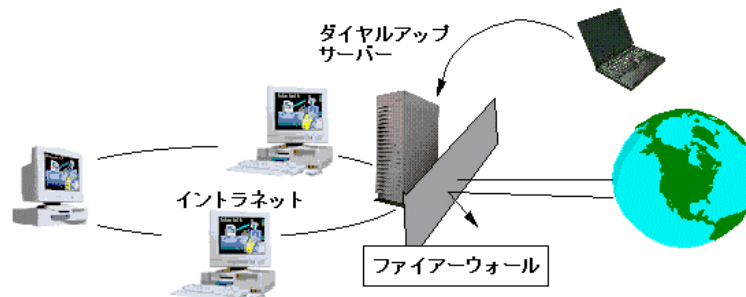
1. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - 「接続ウィザード」を選択してください。
2. パネルの指示に従ってください。

ネットワークカード経由



ネットワークカード経由の接続では、ネットワークカードのデバイス・ドライバと TCP/IP プロトコルがインストールされている必要があります。既にイントラネット環境でお使いの PC に「PC リモコン」をインストールした場合は、特別な設定は必要ありません。Ping 等で TCP/IP レベルの接続ができるかをチェック（77ページ）してください。

① ファイアーウォールについてイントラネット LAN を運営している 多くの 企業にとって、セキュリティの観点から社内ネットワークと全世界に広がるインターネットの間にファイアーウォールを設けることは、安全性の観点から欠くことができなくなってきています。ファイアーウォールの目的は、外部からの攻撃や侵入から社内ネットワークを守ることです。代表的ファイアーウォールの一つ Proxy サーバーは、社内ネットワーク内のクライアントに代わり外部サービスと対話しセキュリティチェックを行いそれを社内ネットワークのクライアントに転送します。一方「PC リモコン」は、コントロールされる側とコントロールする側を直接接続し対話します。これが、「PC リモコン」がファイアーウォール経由で使えない大きな理由です。ただそれでは社外から社内ネットワークにアクセスできないのは不便なので、セキュアされた人だけが、ファイアーウォールの内側にアクセスできる「ダイヤルアップサービス」を行っている企業は多あります。



モデム経由



モデム経由の接続は、モデム用のソフトウェア、ダイヤルアップネットワーク、TCP/IP プロトコルがインストールされている必要があります。また、電話を待ち受けし PPP 接続するには、ダイヤルアップ サーバーをインストールし、待ち受け状態に設定しておく必要があります。ダイヤルアップ・ネットワーク部分の接続は、オペレーティング・システムごとにサポート状況が異なります。

- ホストPCがWindows 95、Windows98の場合
- ホストPCがWindows NT 4.0の場合
- ホストPCがOS/2 Warpの場合

ネットワークの全体的構成を理解していただくため、まず、Windows 95 の場合を例にとって説明をすすめますので、他のオペレーティング・システムをホスト PC(コントロールされる側)として使用される場合も、Windows 95 の場合を一読された上、各オペレーティング・システムの説明に進んでください。

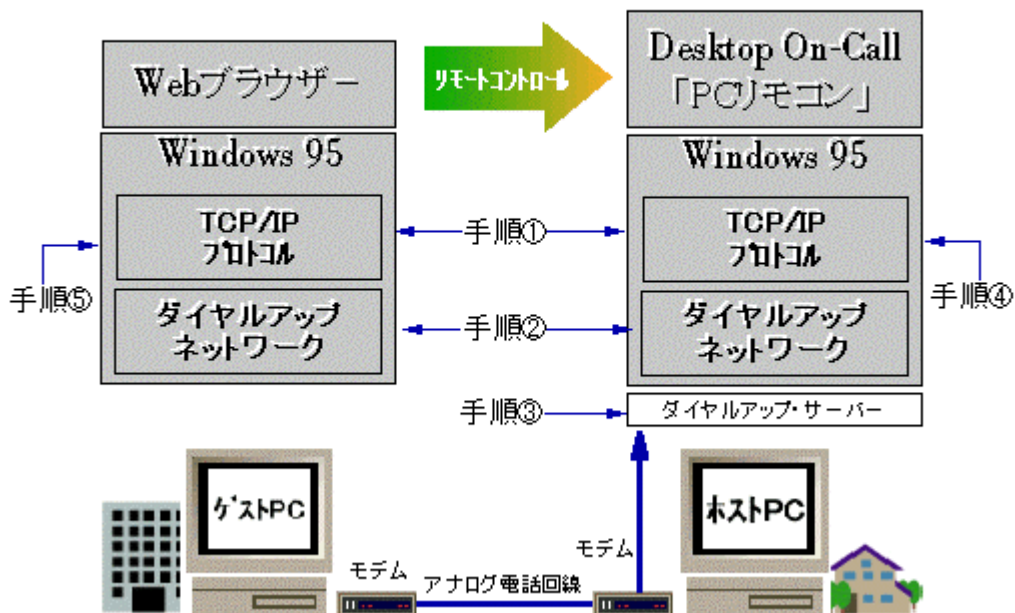
①ホスト PC が MacOS の 場合

重要:Mac をホスト PCとしてモデム経由で使用するには、Apple Remote Access(ARA)などのダイヤルアップ サーバー機能を別途用意する必要があります。


Apple Remote Access(ARA)とダイヤルアップ サーバーの設定に関しては MacOS 情報フォルダの ARA ユーザーガイドあるいは、お使いになっているサーバーソフトのマニュアル等を参照してください。




ホスト PC が Windows 95、Windows 98 の場合

ゲスト PC (Windows 95) からホスト PC (Windows 95) を
リモート・コントロールする



上図に沿って手順 ①～⑤ を説明します。

手順 ① : ホスト PC (コントロールされる側)、ゲスト PC (コントロールする側) にネットワーク環境が既にセットアップされているか調べます。デスクトップ上にネットワークコンピュータのアイコン  があるか調べてください。もしない場合は、Microsoft® Windows® 95 ファーストステップガイド 62 ページ「ネットワークをできるようにコンピュータをセットアップする」を参照してネットワークをできるようにセットアップしてください。

手順 ② :  スタート - 「プログラム」 - 「アクセサリ」のメニューの中に  ダイヤルアップ ネットワーク があるか調べてください。もしない場合は、 57 ページ を参照して、ダイヤルアップ ネットワークをできるようにセットアップしてください。

手順 :ダイヤルアップ サーバーのセットアップを☞ 59ページ「Microsoft® PLUS
ダイヤルアップ サーバーをインストールする」を参照してセットアップしてくださ
い。

手順 :ホスト PC(コントロールされる側)の IP アドレスを☞ 61ページ 「ホスト
PC(コントロールされる側)IP アドレスの指定 (Windows 95/98)」を参照してセット
アップしてください。


手順 :ゲスト PC (コントロールする側)の IP アドレスを☞ 62ページを「ゲスト
PC(コントロールする側)IP アドレスの指定(Windows 95/98)」参照してセットアップ
してください。


これでネットワークの構築と、IP アドレスの設定が完了しました。TCP/IP レベル
で接続できるか、☞ 77ページ を参照して確認してみましょう。

注:「PC リモコン」は、TCP/IP(Transmission Control Protocol / Internet Protocol)という
プロトコルを使いリモートコントロールを行うソフトウェアです。 TCP/IP レベルで 接続できな
いと「 PC リモコンとしては 何れできないので TCP/IP レベルで接続されているかチェックす
るのは 大切です。

注:TCP/IPとは、イーサ ネットや トークンリング、 ISDNなどいわゆる 物理層を意味してい
るわけではありませ んどの 物理層上でも、 TCP/IP プロトコルがサ ポー されていれば、
「PC リモコン」 で接続することができます。

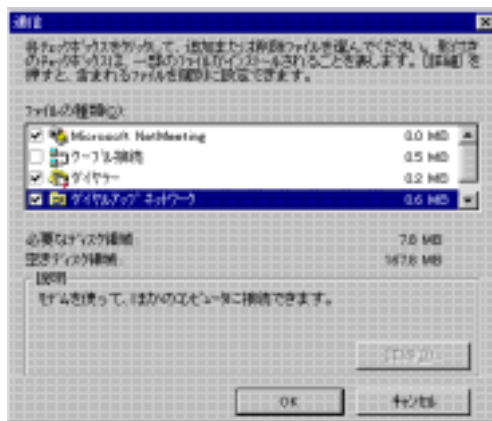
Windows 95/98 ダイアルアップ ネットワークのインストール

 を選択し、「プログラム(P)」を選択し、「アクセサリ」を選択してください。「ダイアルアップ ネットワーク」がありますか？ ない場合は、インストールが必要です。

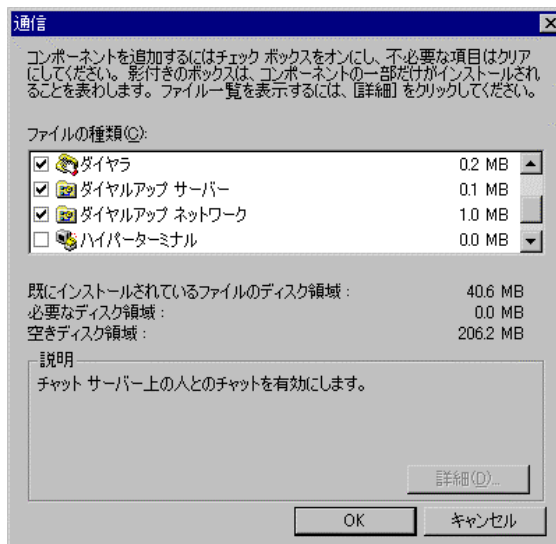
1.  を選択し、「設定(S)」、「コントロールパネル(C)」を選択してください。
2. 「アプリケーションの追加と削除」を選んでください。
3. 「Windowsファイル」タブをクリックして、「ファイルの種類」リストボックスの中から「通信」を選択してください。



4. 「詳細(D)...」を選択してください。



注: Windows 98 の場合は、「ファイルの種類 (C)」以外の中にダイヤルアップ サーバーが含まれています。ダイヤルアップ サーバーをインストールする場合には、チェックマークを付けてください。



5. ダイヤルアップ ネットワークにチェックを付け「OK」を選択してください。「Windows 95/98 CD-ROMを挿入してください」等の指示がありますのでそれによってインストールを完了させてください。

Microsoft® PLUS ダイアルアップ サーバーをインストールする

MS Plus for Windows 95 からダイアルアップ サーバーをインストールする。

- ①ダイアルアップ サーバー機能は、マイクロソフトの無償ダウンロードページで提供されている「Windows 95 ダイアルアップ ネットワーク 1.3 アップグレード」（1999年6月9日現在）にも含まれています。
- ②Windows 98の場合は、ダイアルアップ サーバー機能がWindows 98本体に含まれています。57ページを参照してください。

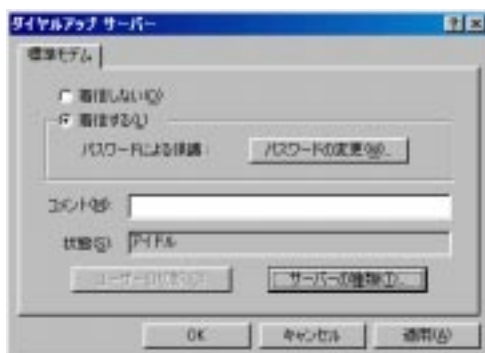
1. MS PLUS for Windows 95 CD-ROMを準備してください。(別途購入する必要があります)
2. MS PLUS インストールを開始し、「ダイアルアップ ネットワーク ネットワーク サーバー」を選択してインストールしてください。



3. インストールが完了し、システムを再起動した後「ダイアルアップ ネットワーク」をオープンしてください。
4. 「接続」を選択し、「ダイアルアップ サーバー」を選択してください。



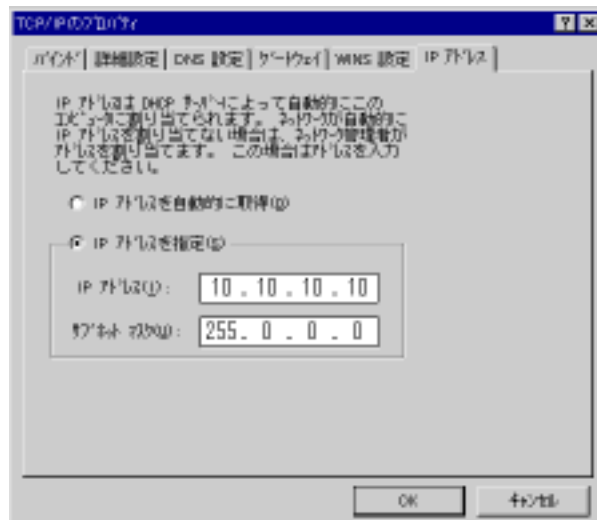
5. 「着信する」を選択し、「サーバーの種類(T)」は、「PPP:Windows 95,Windows NT3.5,インターネット」(Windows98の場合は「PPP:インターネット,Windows NT Server, Windows98」)を選んでください。「OK」を選択してください。



これでダイヤルアップ サーバーの設定は完了です。

ホスト PC(コントロールされる側)IPアドレスの指定(Windows 95/98)

1. スタート - 「設定(S)」 - 「コントロール パネル(C)」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。
3. 「TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ」を選択し「プロパティ(P)」を選択してください。
4. 以下のIPアドレスを設定するパネルで「IPアドレスを指定(S)」を選んでIPアドレスを設定してください。



ゲスト PC(コントロールする側)IPアドレスの指定 (Windows 95/98)

1. スタート - 「プログラム(P)」 - 「アクセサリ」 - 「ダイヤルアップ ネットワーク」 を選択してください。
2. 「新しい接続」をクリックし、ウィザードに従ってサーバー接続用のアイコンを作成してください。

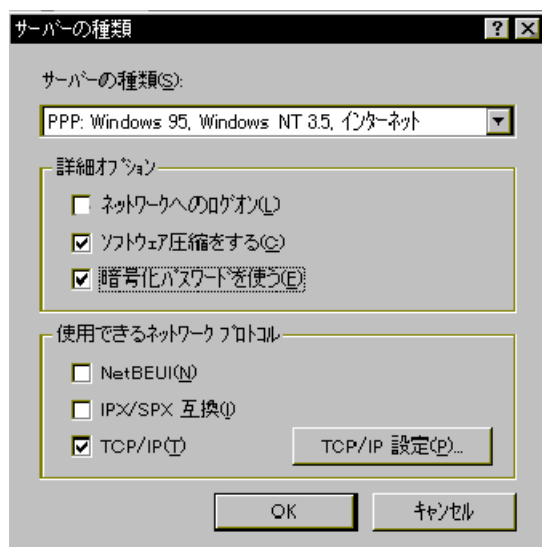


3. アイコンの上で右クリックし、作成したアイコンのプロパティを開いてください。「サーバーの種類(T)...」を選択してください。



4. 「サーバーの種類(S):」で「PPP: Windows 95, Windows NT 3.5, インターネッ

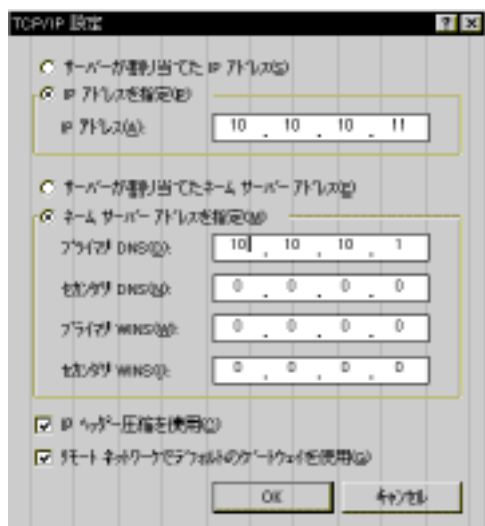
ト」(Windows 98 では「PPP: インターネット,Windows NT Server,Windows98」) を選
択してください。



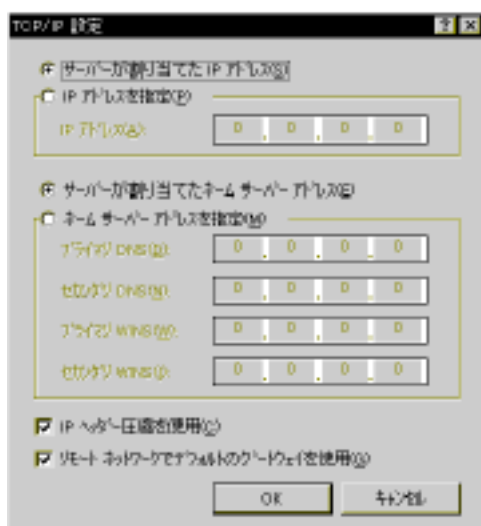
注:Windows 95/98では ホスト PC 側の 省略時の 設定が、「暗号化パスワードを使う (E)」に
設定されていますのでゲスト PC 側でも「暗号化パスワードを使う (E)」をエッチして代さ
い。

5. TCP/IP 設定

[ホスト PC が Windows 95/98 または OS/2 Warp のとき] ホスト PC は自動的に
ゲスト PC の IP アドレスを割り当ててくれないので、以下のように[IP アドレス
を指定(P)]をチェックし、ホスト PC と異なるアドレスを入力します。またネーム
サーバーはなくても、指定する必要があるので、[ネームサーバーアドレスを指定]
を選択し、ダミーとして適当な IP アドレスを入れます。OK を押して完了です。




[ホスト PC が Windows NT のとき] Windows NT は自動的にゲスト PC の IP アドレスを割り当ててくれるので、以下のように[サーバーが割り当てた IP アドレス(S)]をチェックします。またネームサーバーは[サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス(E)]を選択します。OK を押して完了です。




ホスト PC が Windows NT 4.0 の場合

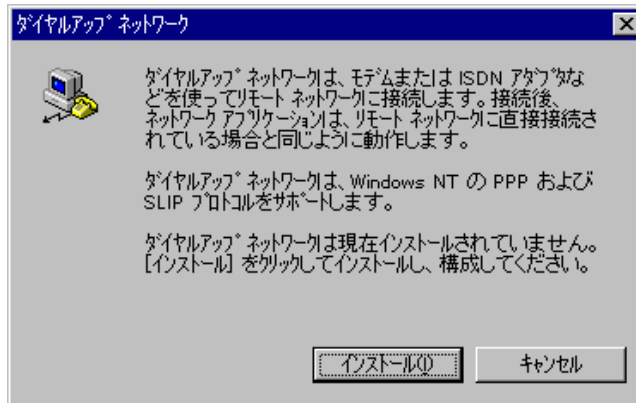
Windows 95/98 の場合と同様に、電話回線を使ってモデムを介して接続する場合は、TCP/IP ネットワークおよびダイヤルアップネットワークをインストールしておく必要があります。ただし、Windows NT の場合は、ダイヤルアップ サーバーは Windows NT 本体に含まれています。

1. ネットワーク・コンピュータのプロパティを開き、TCP/IPがインストールされているか、確認してください。インストールされていない場合は、「追加」を選び、「ネットワーク構成ファイルの追加」のパネルでプロトコルを選び再び「追加」を選択して製造元MicrosoftのTCP/IPをインストールしてください。
2. ☞ 66ページ 「Windows NT 4.0 ダイヤルアップ ネットワークをインストール」を参照してダイヤルアップ ネットワークをインストールしてください。
3. ☞ 67ページ 「ダイヤルアップ着信可に設定する-ホストPC側 (Windows NT)」を参照してダイヤルアップ着信可に設定してください
4. ☞ 68ページ 「IPアドレスの設定-ホストPC側 (Windows NT)」を参照してIPアドレス (ホストPC側) を設定してください。
5. ☞ 69ページ 「ダイヤルアップのユーザー指定-ホストPC側 (Windows NT)」を参照してダイヤルアップのユーザー指定を行ってください。
6. ☞ 70ページ 「ゲストPC (コントロールする側)IPアドレスの指定(Windows 95/98)」を参照してゲストPC側のIPアドレスを設定してください。
ゲスト PC が Windows 95/98 の場合は ☞ 63ページ 「5」の「ホスト PC が Windows NT のとき」を参照してください。
7.  「スタート」 - 「プログラム(P)」 - 「管理ツール」 - 「リモートアクセス管理」を選択しリモート・アクセス・サービスを開始してください。

Windows NT 4.0 ダイアルアップ ネットワークをインストール

1.  「プログラム(P)」-「アクセサリ」-「ダイアルアップ ネットワーク」を選択します。

ダイアルアップ ネットワークインストールの パネルが表示されます。



2. Windows NT 4.0 の CD-ROM を入れて「インストール」を選択してください。
3. モデムがインストールされていない場合は、モデムのインストールが開始されますのでここでモデムを設定してください。
4. 再起動するとダイアルアップ ネットワークが使用できる状態になります。

ダイヤルアップ着信可に設定する -ホスト PC側 (Windows NT)

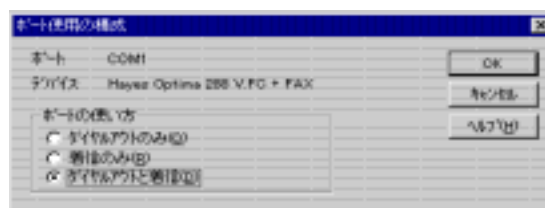
1. スタート - 「設定(S)」 - 「コントロール パネル(C)」を選択し「ネットワーク」をオープンしてください。
2. 「サービス」タグをクリックし、「リモートアクセス サービス」を選択して、「プロパティ(P)...」を選択してください。



3. 「構成(C)...」を選択します。



4. 「着信のみ」又は「ダイヤルアウトと着信」を選択し「OK」を押してください。



IPアドレスの設定 -ホスト PC側(Windows NT)

1. スタート - 「設定(S)」 - 「コントロールパネル(C)」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。すると以下のパネルが表示されます。

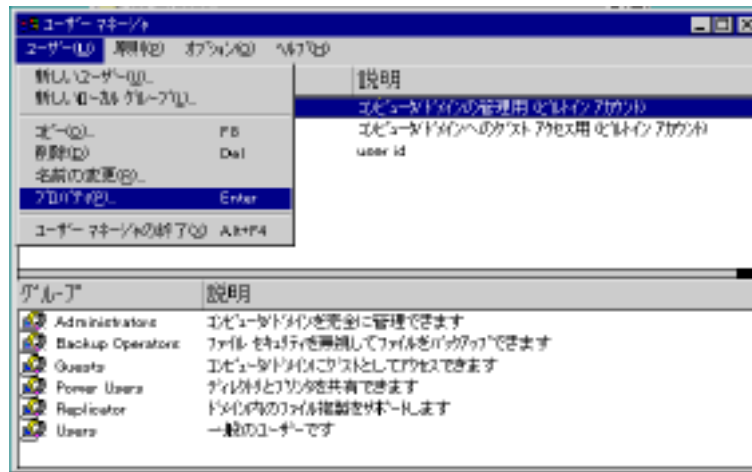


3. 「プロパティ(P)...」を選択してください。以下の IP アドレスを設定するパネルで「IP アドレスを指定する(S)」を選んで IP アドレスを入力してください。



ダイヤルアップのユーザー指定-ホスト PC側(Windows NT)

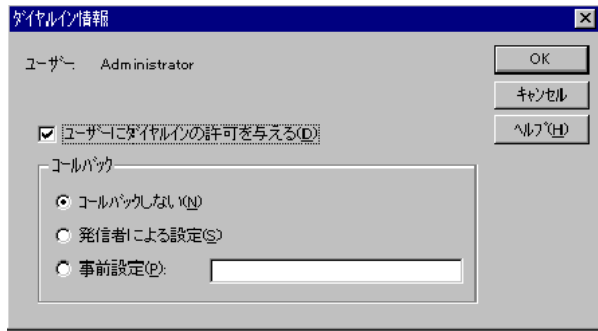
1. スタート - 「プログラム」 - 「管理ツール(共通)」 - 「ユーザーマネージャ」を選択してください。ダイヤルアップでアクセスするユーザーを選び、プロパティを選択してください。



2. 「ダイヤルイン(I)」ボタンを押してください。



3. 「ユーザーにダイヤルインの許可を与える」にチェックマークを付けてください。



4. 「OK」を押してください。

ゲスト PC(コントロールする)側のIPアドレス指定 (Windows NT)

この設定は、ホスト PC の Windows NT でおこないます。

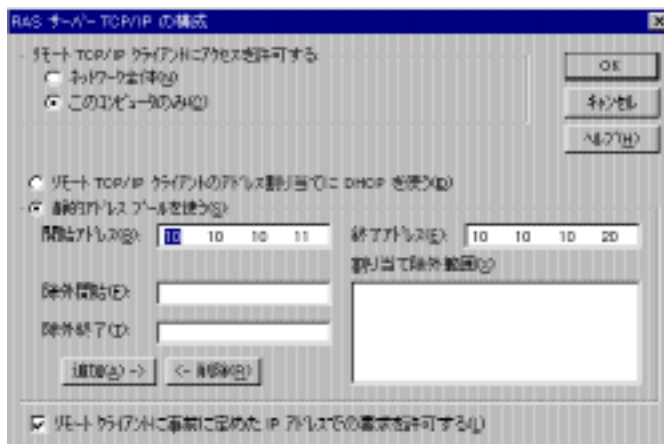
1. スタート - 「設定」 - 「コントロールパネル」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。
3. 「サービス」タグをクリックし、「リモートアクセス サービス」を選択して、「プロパティ(P)...」を選択してください。



4. 「ネットワーク(N)...」ボタンを押してください。
「ネットワークの構成」パネルが表示されます。



5. 「ダイヤルアウトプロトコル」は、TCP/IP を選択し、「サーバーの設定」の「次のリモートクライアントを許可する」の中の TCP/IP にチェックマークを付け、「構成(C)...」を押してください。
6. 「RAS サーバー TCP/IP の構成」は以下の要領で設定してください。
「リモート TCP/IP クライアントにアクセス許可する」は、「このコンピューターのみ」を選択する。「静的アドレスプールを使う」を選択する。「開始アドレス」「終了アドレス」にはホスト PC の IP アドレスとかち合わないよう設定する。



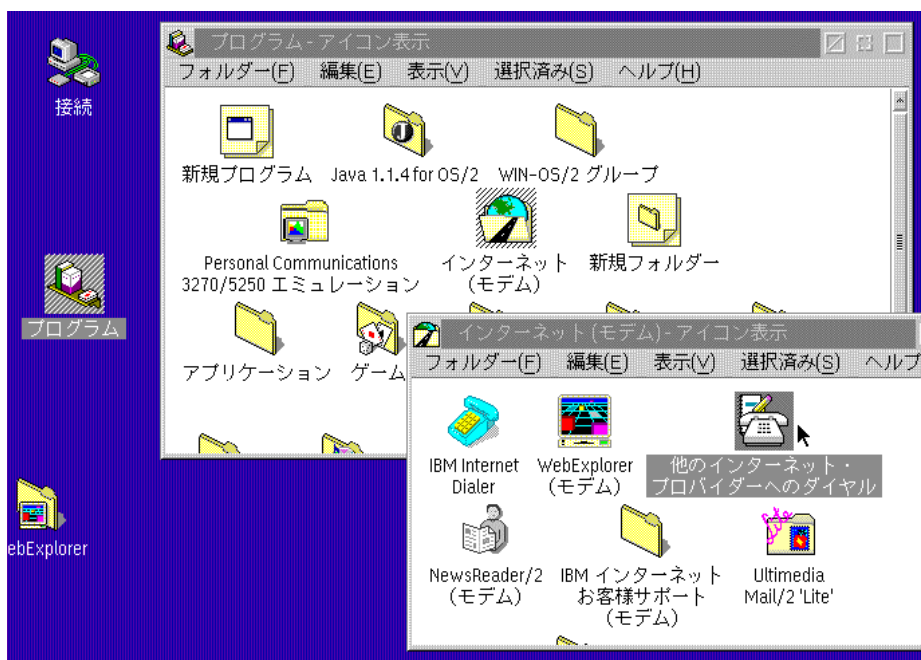
7. 「OK」を押して終了してください。

ホスト PC が OS/2 の場合

本格的な PPP サーバーとしてダイヤルアップ サーバーを構築するには、Warp Server が必要ですが、1対1接続でよい場合は、OS/2 Warp で、PPP での Peer to Peer 接続が利用できます。ここでは、PPP での Peer to Peer 接続方法を説明します。

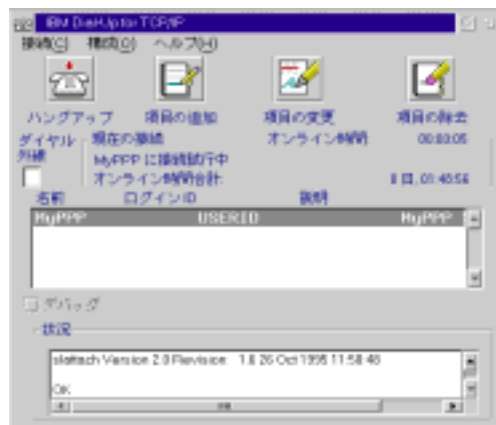
OS/2 Warp の場合は、TCP/IP ネットワークがインストールされていれば、「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」で電話回線を使ってモデムを介して接続することができます。

1. 「プログラム」フォルダを開いてください。TCP/IPがインストールされていれば「インターネット(モデム)」アイコンがあります。「インターネット(モデム)」を開くと「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」というオブジェクトがあります。ダブルクリックしてオープンしてください。



2. 73ページ「OS/2 Warp「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定」を参照してホストPC側/ゲストPC側の設定をしてください。

3. 「ダイヤル」を選択し、接続してください。



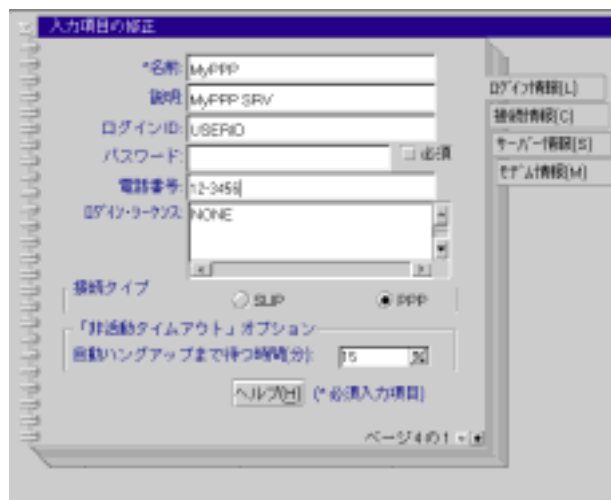
4. TCP/IPレベルで接続できるか、[77ページ](#)を参照して確認してみましょう。

OS/2 Warp「他のインターネットプロバイダーへのダイヤル」設定

ホスト PC(コントロールされる側)、ゲスト PC(コントロールする側)とも同様の設定をします。ゲスト PC(コントロールする側)の設定で注意が必要な項目は注意事項として示します。

1. 「項目の追加」を選択します。

「入力項目の修正」パネルが表示されます。



2. *名前、説明、ログインID、(パスワード)、電話番号(ホストPC側の電話番号を入力)を入力し、接続タイプ PPPを選択します。
3. 接続情報タブをクリックしてください。

入力項目の修正

IPアドレス: 10.18.10.10

*宛先IPアドレス: 10.18.10.11

ネットマスク: 255.0.0.0

*MRUサイズ: 1500

VJ圧縮 一次インターフェース

ドメイン・ネーム・サーバー: 10.18.10.10

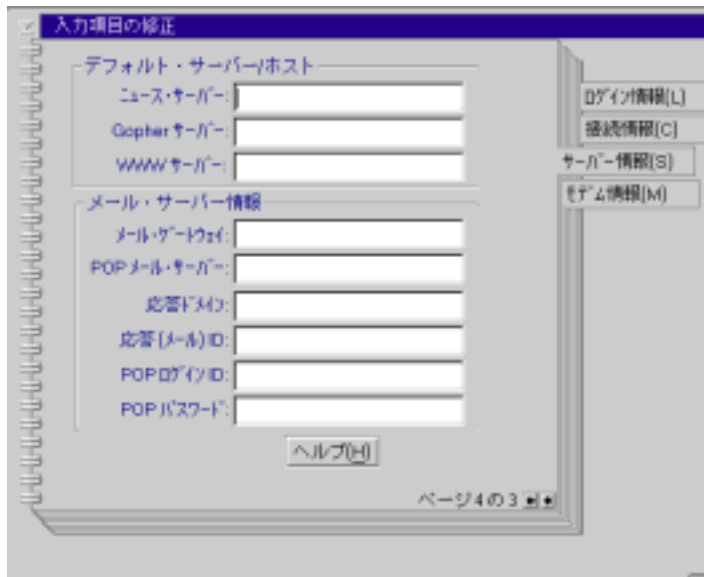
ホスト名:

*ドメイン名: OTOCV2.BM

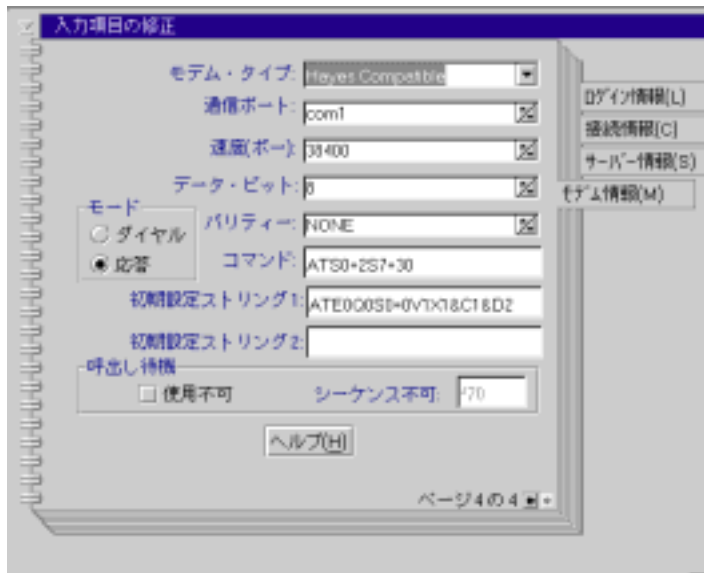
ヘルプ(H) (*)必須入力項目

ページ 4 の 2

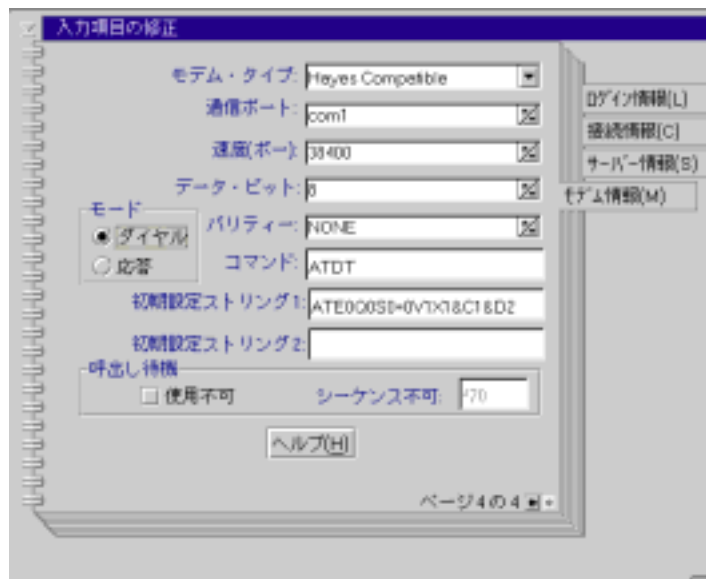
4. (ホストPC側) IPアドレス、宛先IPアドレス、ネットマスクを入力します。
*MRUサイズは、1500のままにしておきます。「VJ圧縮」を選択して下さい。
ドメイン・ネーム・サーバーは、サーバーのIPアドレスを入力してください。
注ゲスト PC 側の設定では、ホスト PC 側で設定した、IP アドレス、宛先 IP アドレスが逆になります。
5. サーバー情報のパネルでは特に入力しなければならない項目はありません。
空白のままでもかまいません。



6. モデム情報のパネルでは、モデム・タイプ、通信ポート、速度を入力して下さい。ホストPC側では、モードを「応答」にセットして下さい。



ゲスト PCでは、モードをダイヤルにセットして下さい



ping を用いた TCP/IP のチェック

OS/2、UNIX または Windows 95/98 などではコマンド・プロンプトで ping というコマンドを使用してネットワーク上で正しく TCP/IP での接続ができるかを調べることができます。

注 正確には、ping は、ICMP プロトコルを使って IP 間のネットワーク接続をチェックしています。

「PC リモコン」で接続するゲスト PC またはホスト PC のいずれかのデスクトップ上でコマンド・プロンプトを開き、相手方の IP アドレスを ping コマンドで指定します。

下の例では、接続する相手方の IP アドレスは 192.168.1.10 です。

ping 192.168.1.10 と入力したコマンドに対し、Reply from 192.168.1.10 と相手方のシステムが応答し、TCP/IP で正しく接続できる状態であることが分かります。

```
Microsoft(R) Windows 95
(C)Copyright Microsoft Corp 1981-1995.

C:\WINDOWS>ping 192.168.1.10

Pinging 192.168.1.10 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time<10ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32

C:\WINDOWS>
```

下の例では、ping 192.168.1.30 と入力したコマンドに対し、Request timed out. というメッセージが帰ってきています。

```
Microsoft(R) Windows 95
(C)Copyright Microsoft Corp 1981-1995.

C:\WINDOWS>ping 192.168.1.30

Pinging 192.168.1.30 with 32 bytes of data:

Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

C:\WINDOWS>
```

これは、お互いが正しく TCP/IP で接続できる状態ではないことを示しています。


この場合には、お使いのシステムのマニュアルなどを参照して、TCP/IP ネットワークの設定を変更し、上の例のように ping コマンドで接続が確認できるようにならない限り、「PC リモコン」は機能しません。

第4章 機能

リモートコントロール

「PC リモコン」でホスト PC (コントロールされる側)にアクセスする方法は、ブラウザでインターネットのホームページにアクセスするのと全く同じです。

ブラウザからの接続

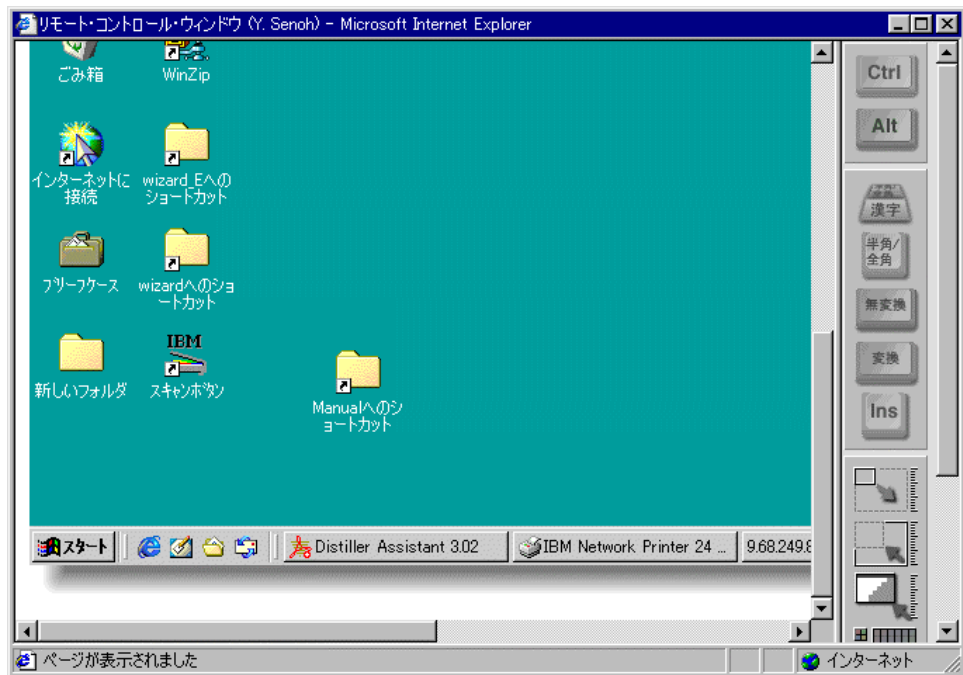
注 ホスト PC (コントロールされる側)で、 - 「プログラム」 - 「PC リモコン」 - Desktop On-Call「PC リモコン」を選択するとメニューが表示されます。「PC リモコン」サーバーの状況が「待機中」であることを確認してください。

1. ゲスト PC (コントロールする側)で、Netscape Communicator 4.0以上や Internet Explorer 4.0以上などのJava アプレットが動作するブラウザを起動させてください。
2. 「PC リモコン」がインストールされているマシンの URL アドレスを入力してください。
3. ユーザー ID とパスワードを要求するパネルが表示されます。(ユーザー ID とパスワードを要求しないに設定している場合は、表示されません。)



4. ユーザーIDとパスワードを入力してください。

リモートコントロールウィンドウが開き、ホスト PC のデスクトップイメージが表示されます。



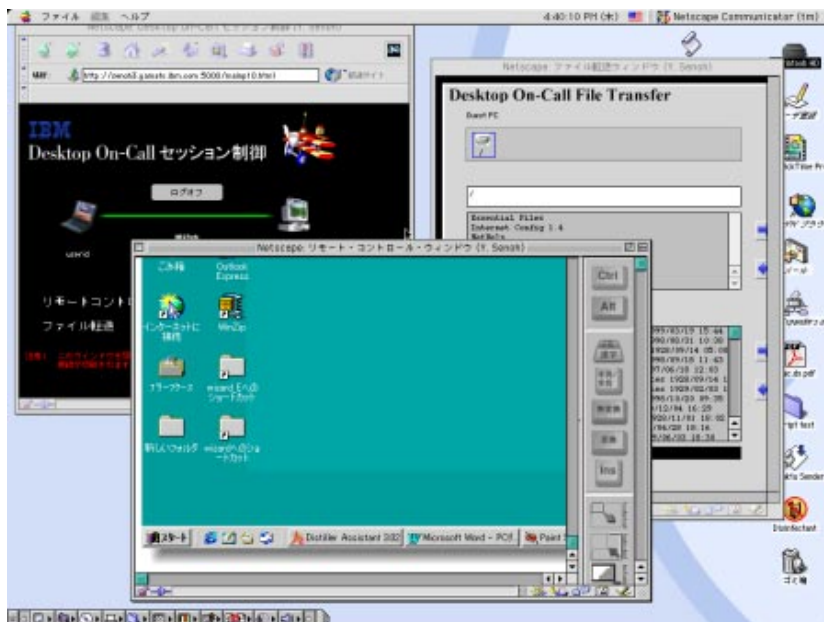
5. まず **スタート** をクリックしてみてください。そしてポインターをメニューへ移動させると図のように通常、Windowsを使っている通り操作できます。

注: マウス右クリックも対応しています。

注: Maxがゲスト PC の場合は、118ページの注意事項を参照して、ブラウザのメモリステムの仮想メモリを増やしてください。

基本コネクトモードと拡張コネクトモード

「PC リモコン」は、複数ウィンドウなどをサポートするためにゲスト PC 側のブラウザに、「Java スクリプト」や「LiveConnect 1.2」のサポートがあることを条件としています。（このモードを拡張コネクト・モードと言います）しかし、その条件を満たさないブラウザの場合は、基本コネクト・モードでの接続を試みます。



上図は、拡張コネクトモードで接続した場合（ホスト PC は、Windows 98、ゲスト PC は iMac MacOS 8.5、ブラウザ：Netscape communicator 4.5）基本コネクト・モードで接続された場合は、Desktop On-Call Version 2.5 と同等のリモート・コントロール画面になります。








基本コネクトモードでは以下の制限事項があります。

- 使用されるブラウザのウィンドウは 1 つのみです。
- 画面の縮小率は 100% に固定です。拡大縮小は利用できません。
- ファイル転送の機能が利用できません。
- SSL の機能が利用できません(自動的にオフになります)。

エミュレーションボタン

エミュレーション・ボタンとは、Alt キーや Ctrl キーのように、ゲスト PC のブラウザに対して効いてしまうキーや、漢字キーなどのように Java によってサポートされていないキーで、リモート・コントロールに是非必要なキーを画面の傍らに配置してサポートしている操作系機能キーのことです。

マウスでクリックすることによって使用することができます。

ボタン (状態 1)	ボタン (状態 2)	キー名前	説明
106 キーボード			
		コントロール・キー	一度押すと次に押すキーが Ctrl 状態で押されます。
		前面(Alt)キー	一度押すと次に押すキーが Alt 状態で押されます。
		漢字キー	
		半角/全角キー	
		変換キー	
		無変換キー	
		挿入(Insert)キー	




101 キーボード

		コントロール・キー	一度押すと次に押すキーが Ctrl 状態で押されます。
		前面(Alt)キー	一度押すと次に押すキーが Alt 状態で押されます。
		挿入(Insert)キー	

NEC PC-98 キーボード










		コントロール・キー	一度押すと次に押すキーが Ctrl 状態で押されます。
		前面(Alt)キー	一度押すと次に押すキーが GRPH 状態で押されます。
		漢字キー	
		かなキー	
		Nfer キー	
		Xfter キー	
		挿入(Insert)キー	

Mac キーボード

		Control キー	一度押すと次に押すキーが Control 状態で押されます。
		Option キー	一度押すと次に押すキーが option 状態で押されます。
		コマンドキー	一度押すと次に押すキーがコマンド状態で押されます。

〔2つのキーを同時に押された状態は、サポートされていません。〕

共通ボタン

		拡大	基本コネクトモードでは動作しません
		縮小	基本コネクトモードでは動作しません
		縮小時のアンチエイリアスオフ	縮小時のアンチエイリアスオン
		256色転送	
		マウス右/左ボタン切り替え	マウスボタンが一つしかないマウスで右マウスボタンを使用する場合にはこのボタンで切り替えることができます。)
		切断	
		ファイル転送	基本コネクトモードでは動作しません 注:ホスト PC が Mac の場合サポートされていません

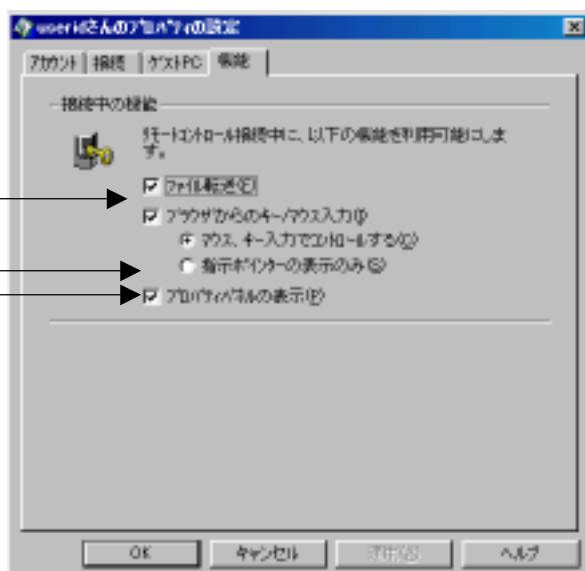
機能制限オプション

機能制限オプションは、ユーザーIDごとに制限したい機能があればチェック・マークを外すことでその機能を制限することができます。

— **ファイル転送**：チェックを外すとファイル転送機能を制限できます。

— **ブラウザからのキー/マウス入力**：チェックを外すとリモート・コントロールを禁止できます。

— **指示ポインターの表示のみ**を選択すると、場所を指示する手の形のポインタが表示され画面上の場所を示すことができます。マウス左ボタンを押すと表示されている手の角度が変わりよりわかりやすく指示することができます。



— **プロパティパネルの表示**：チェックを外すとリモートコントロール中にプロパティを変更することを制限できます。

セッション制御

拡張コネクト・モードで接続した場合、セッション制御パネルが表示されます。このパネルを終了させると、通信も切断されてしまいますので、パネルが不必要なときは最小化してください。このパネルは、リモート・コントロール画面とファイル転送画面の接続、画面の開閉、ユーザー接続などを管理しています。



ログオフセッションを切断し、選択するとログオフします。

実行:ファイル転送メニューを開きます。

ファイル転送

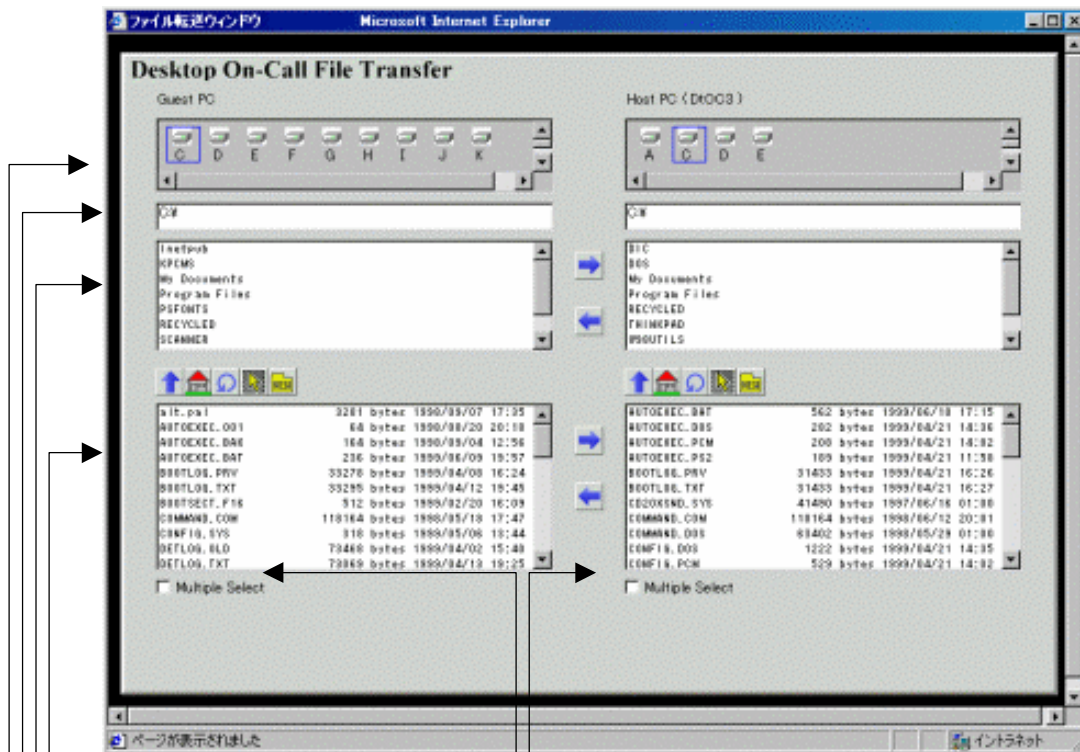
サインドアプレット認証パネル

「PC リモコン」は、サインド・アプレットを用いることにより、ファイルの送受信をサポートしています。従って、ファイル転送画面を開始すると Java アプレット発行者認証パネルが表示されます。「はい」を選らぶと File Transfer(ファイル転送)の画面が表示されます。

注:この機能は JDK 1.1 以上をサポートしたブラウザで、拡張コネクトモード接続したときのみ動作します。








このパネルは、ご使用のブラウザによって異なります。




- ドライブ
- 現行ディレクトリー
- ディレクトリー・リスト
- ファイル・リスト


複数のファイルを選択するには「Multiple Select」をチェックマークを付け、ファイル名の上でクリックします。

	親ディレクトリーに戻ります。
	現行ドライブのルート・ディレクトリーに戻ります。
	再読み込みをします。
	すべて選択します。
	新しいディレクトリーを作成します。


ファイルをホスト PC からゲスト PC に転送する

1. ホストPCのファイルを1つあるいは複数選んでください。
複数選^①には Multiple Select にチェックマークを付けた上で、ファイル名^②上でクリックしてください
2. ホストPCからゲストPCを指している矢印ボタンを押してください


ファイルをゲスト PC からホスト PC に転送する

1. ゲストPCのファイルを1つあるいは複数選んでください。
複数選^①には Multiple Select にチェックマークを付けた上で、ファイル名^②上でクリックしてください
2. ホストPCからゲストPCを指している矢印ボタンを押してください


ホスト PC からゲスト PC にディレクトリーごと転送する

1. ホストPCのディレクトリーを1つ選んでください。
2. 矢印ボタンを押してください

ゲスト PC からホスト PC にディレクトリーごと転送する

1. ゲストPCのディレクトリーを1つ選んでください。
2. 矢印ボタンを押してください


新しいディレクトリーを作る(ホストPCゲストPC)

1. 新たに作成したいディレクトリーの親ディレクトリを現行ディレクトリーにします。その上で現行ディレクトリーフィールドに新しいディレクトリー名を入力してください。
2. 新しいディレクトリーボタンを押してください。

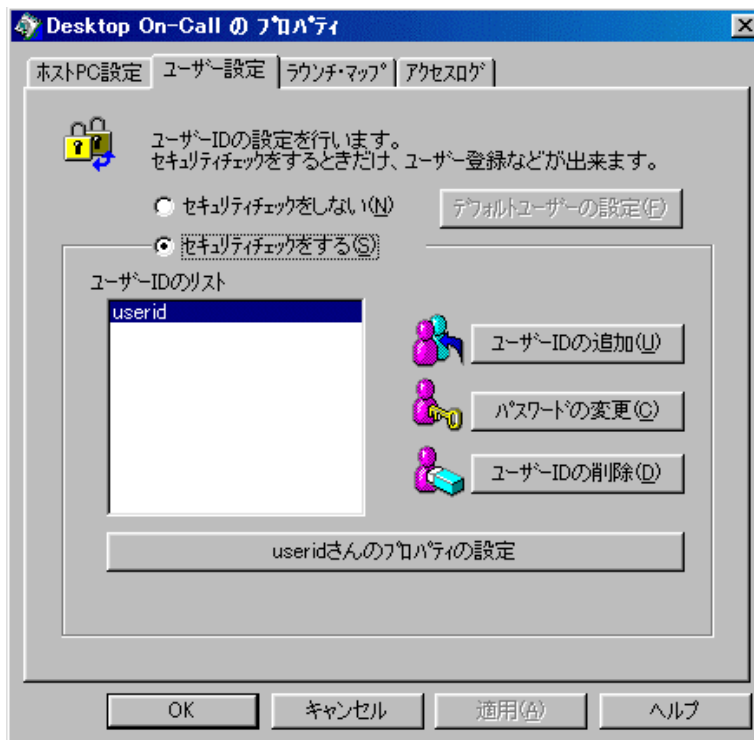
セキュリティ機能

ユーザーIDごとのプロパティの設定

個々のユーザーIDごと、あるいは省略値のプロパティを設定することができます。

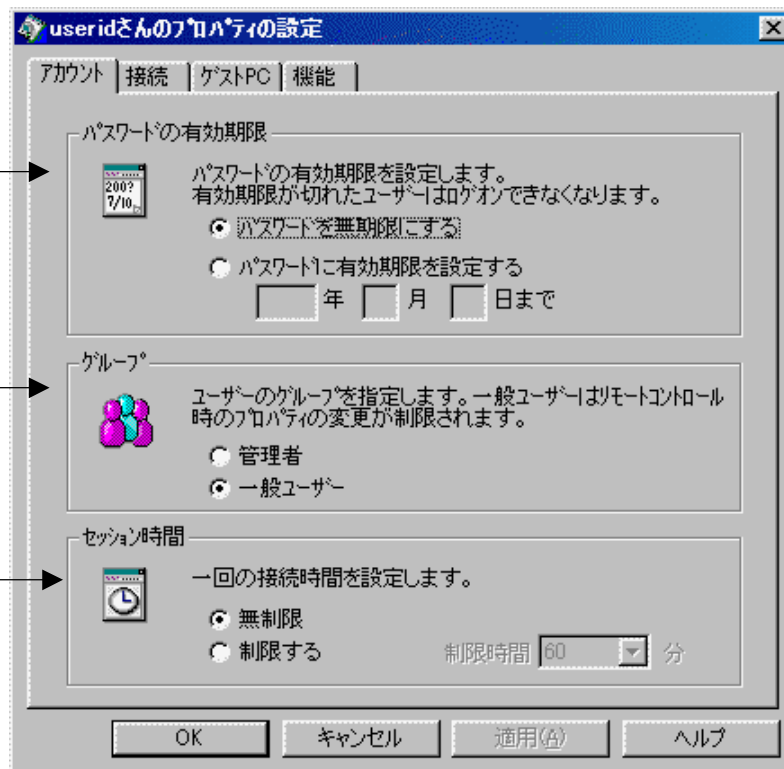
1. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - Desktop On-Call
「PCリモコン」を選択すると「PCリモコン」のプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ユーザー設定」タブを選択してください。

個々のユーザーIDごとのプロパティを設定する場合は、ユーザーIDを選択し、「××さんのプロパティの設定」を選んでください。省略値のプロパティを設定する場合は、「デフォルト・ユーザーの設定」を選択してください。



アカウント

- パスワードの有効期限
ユーザーごとのパスワードの有効期限を設定できます。
- グループ
管理者か、一般ユーザーかを選びます。一般ユーザーを選択するとリモートコントロール中のプロパティの変更はできません。



- セッション時間
一回あたりのセッション時間を設定できます。たとえば、通常のリモートコントロール作業が3分で終了する場合、セッション時間を1時間に設定しておけば、万一セッションを閉じるのを忘れた場合でも1時間でセッションはクローズするので、安心です。

接続

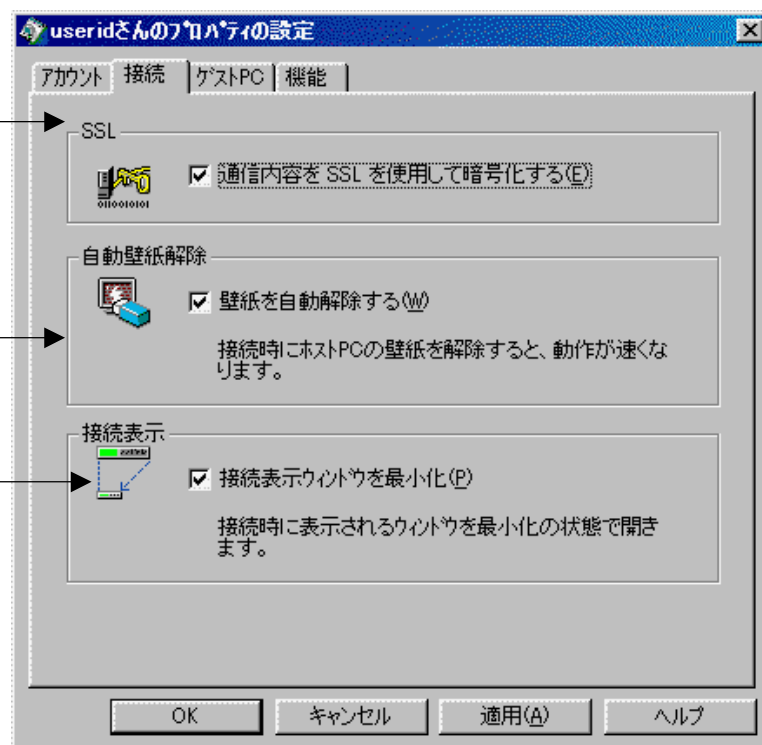
- SSL

SSL仕様を用いてホストPCがゲストPC間のデータの機密性を保証します。SSL通信のオンオフを設定します。

注:SSLオンにした場合セッション確立に通常より時間がかかります。

- 自動壁紙解除

自動壁紙解除のオンオフを設定します。

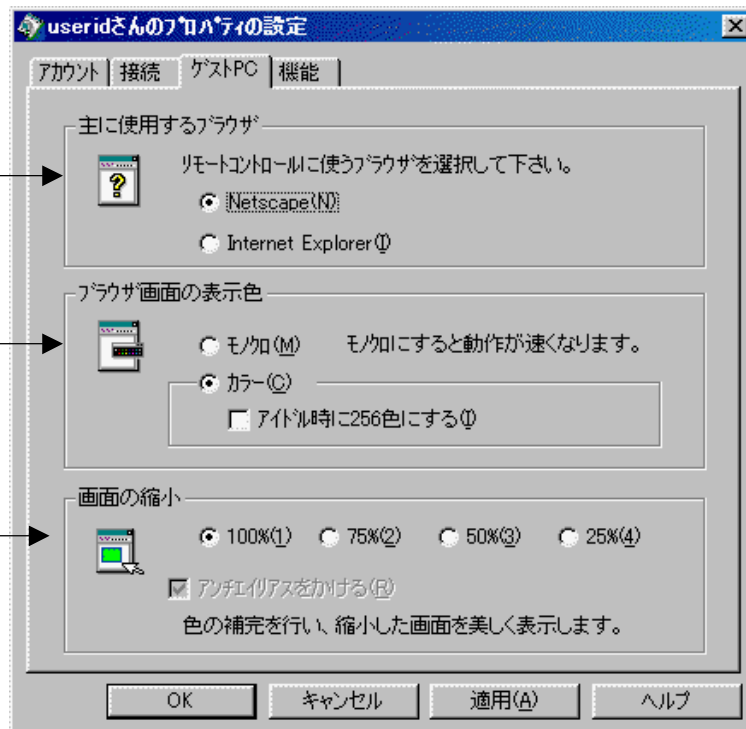


- 接続表示

接続表示パネルをデフォルト最小化にするかを設定します。

ゲスト PC

- 主に使用するブラウザ
ブラウザによって色の扱いが多少異なるため、主に使用するブラウザをここで設定できます。
- ブラウザ画面の表示色
モノクロ 4 階調かカラーを選択します。アイドル時に「256 色にする」を選択すると、256 色情報がアイドル検出時に追加送信されます。

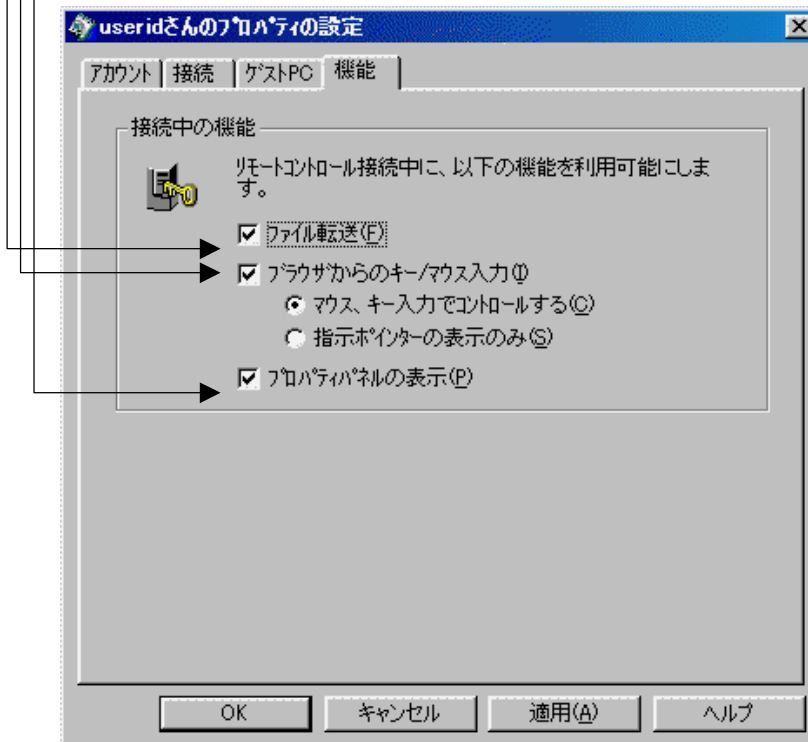


- 画面の縮小
画面の縮小比率をあらかじめ設定することができます。

機能

チェックマークを外すことで、以下の機能を制限することができます。

- ファイル転送
- ブラウザからのキー/マウス入力
指示ポインタの使用
- プロパティパネルの表示




オートアップデート

オートアップデート機能を選択するだけで、ホスト PC の「PC リモコン」が最新かどうかを判定し、アップデートモジュールが提供されている場合には、適応し最新に保つことが出来ます。この機能を使用するには、インターネットへ接続している



ことが条件となります。


省略時の最新モジュール・アドレスは、<http://www.ibm.co.jp/pspj/dtoc/update3>です。最新モジュールを入手し、省略時のアドレスを自社サーバーなどに変更することもできます。

ホスト PC で、 スタート - 「プログラム」 - 「PC リモコン」 オート・アップデートを選択してください。パネルの指示に従ってください。

接続ウィザード (Windows のみ)



「PC リモコン」は、ブラウザを使ってリモート・コントロールするという特長から OS が提供するネットワーク環境を利用する仕様になっています。このため、OS にネットワーク環境をセットアップする必要があります。接続ウィザードは、ホスト PC 側のネットワーク環境がセットアップされているかを確認し、されていなかった場合には、セットアップ方法をガイドします。

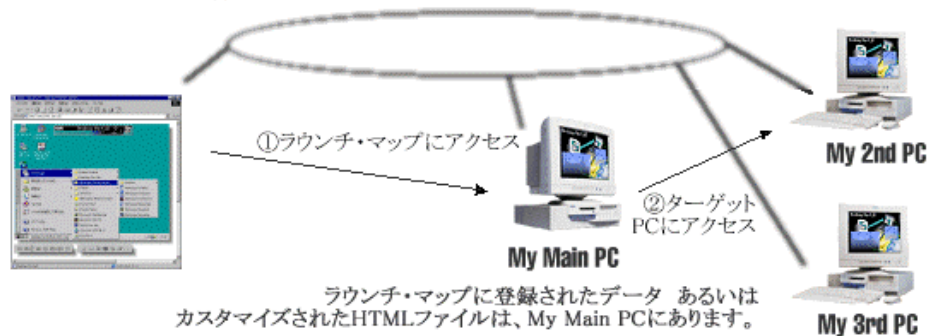
ホスト PC で、 スタート - 「プログラム」 - 「PC リモコン」 接続ウィザードを選択してください。パネルの指示に従ってください。

ラUNCH マップ

ラUNCH・マップ機能は、複数台の「PC リモコン」がインストールされているPCをグループ管理する場合に便利な機能です。

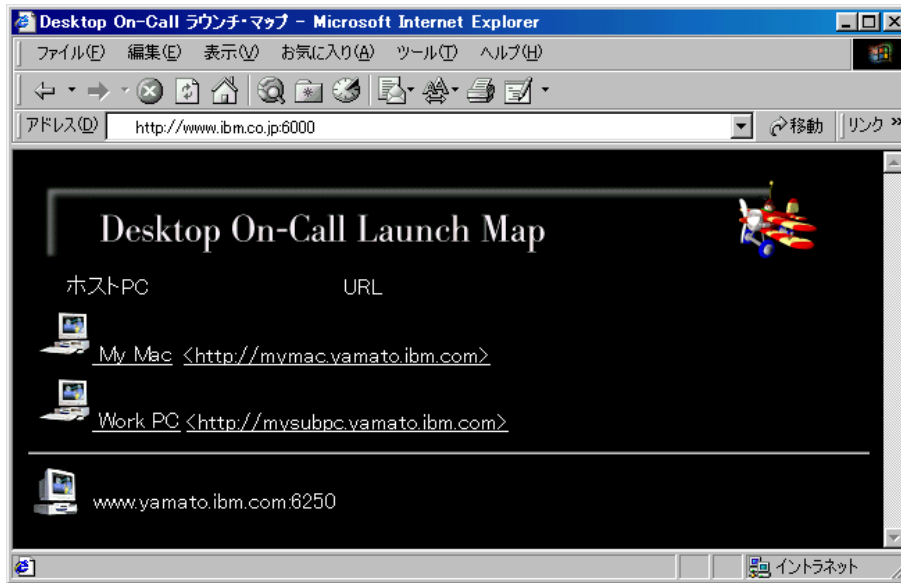
複数台のPCを、「PC リモコン」を使ってリモート・コントロールする場合、アクセスするたびにURLあるいはIPアドレスを入力することは、必ずしも便利とは言えません。お気に入り(Bookmark など)リストに追加しておくことで簡単にアクセスできますが、いつも使っているブラウザからでなく、例えば、出張へ行って、誰かのブラウザを借りたときはどうでしょう。アクセスするすべてのPCのアドレスを正確に覚えていなければなりません。そんなとき、ラUNCH・マップ機能を利用してアクセスするPCを登録しておくことで便利です。

ラUNCH・マップ構成



ここで例を示します。あなたは3台のPCに「PC リモコン」をインストールし、リモート・コントロールをして管理しています。いつも、最初にアクセスするPCは「My Main PC」です。ラUNCH・マップは、「My Main PC」の中に存在しています。したがって、「My Main PC」のプロパティパネルでラUNCH・マップを選択しておけば、「My Main PC」を最初にアクセスすれば、ラUNCH・マップが表示されます。


ブラウザから「My Main PC」のURL アドレス www.yamato.ibm.com:6250 を入力すると下のようページが表示されます。



アクセスしたい PC 上でクリックしてください。

これなら「www.yamato.ibm.com:6250」に登録しておけば、他の PC のアドレスを覚えておく必要はありません。

ラUNCH マップへの PC の登録方法

1. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - Desktop On-Call 「PCリモコン」を選択すると「PCリモコン」のプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。
4. 「ホストPCの動作」の「ラUNCH・マップ」を選択してください。
5. 「追加」を選択してください。
6. ホスト名、URLを入力し「OK」を押してください。

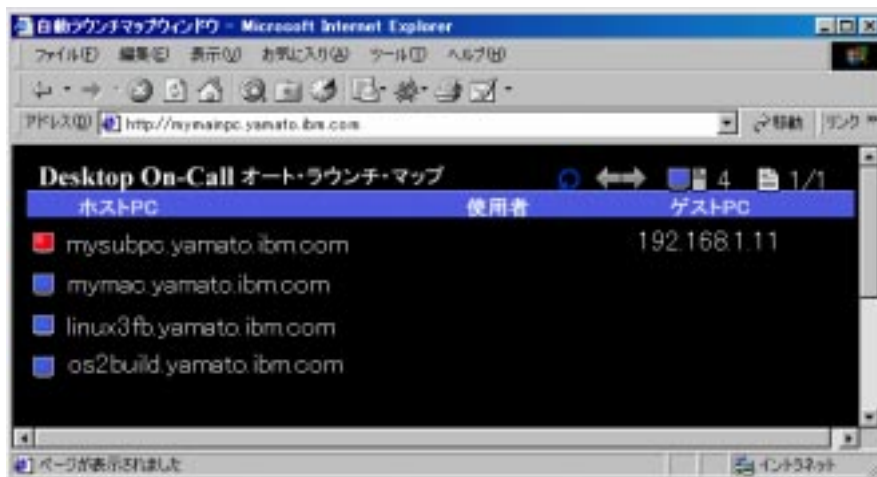
これで登録は完了です。ブラウザから、最初にアクセスした PC (この例では My Main PC [www.yamato.ibm.com:6250])がブラウザの下方に以下の PC の絵で表現され

まず、追加登録された PC はブラウザ上方に PC の絵で表現されます。


オートラUNCHマップ

「PC リモコン」は、サブネット内をブロードキャストして自動的に、「PC リモコン」がインストールされている PC をラUNCH・マップとしてリストアップする機能が付きました。ブロードキャストするサブネットは、現サブネット以外にも指定することができます。

注:Mac は 見 込 れ ませ ん。



オートラUNCHマップの設定方法

1. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - Desktop On-Call
「PCリモコン」を選択すると「PCリモコン」のプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ラUNCHマップ」タブを選択してください。
4. 「ホストPCの動作」の中から「オート・ラUNCH・マップ」を選択してください。
5. 「OK」を押してください。これで完了です。

追加サブネットの指定方法



この入力フィールドに追加でプロードキヤするサブネットの指定プロードキヤアドレスを入力し、追加ボタンを押します。

指定ブロードキャストアドレスの算出方法

このパネルで指定するブロードキャストアドレスは、自動ラウンチ・マップに表示したいホストPCのIPアドレスとサブネットマスクの2つより、以下の方法で算出します。

ブロードキャストアドレス = サブネットアドレス OR ブロードキャスト用ホストアドレス

サブネットアドレス = ホストPCのアドレス AND ホストPCのサブネットマスク

ブロードキャスト用ホストアドレス = すべてのビットが1のホストアドレス
= NOT サブネットマスク

注：AND は 論理積 OR は 論理和 NOT は 1の補数を表します。

具体例を見てみましょう。ホストPCのIPアドレスが 192.168.3.16 でサブネットマスクが 255.255.254.0 の場合、

サブネットアドレス = 192.168.2.16 AND 255.255.254.0
= 192.168.2.0

ブロードキャスト用ホストアドレス = NOT 255.255.254.0
= 0.0.1.255


ブロードキャストアドレス = 192.168.2.0 OR 0.0.1.255
= 192.168.3.255

となります。

オリジナルラUNCH マップ

実際のオフィスや教室などにより適合した HTML ファイルを用意し、「PC リモコン」のラUNCH・マップとして用いると、ターゲットとする PC を実環境に近い形で見つけ出しリモート・コントロールすることができます。

「PC リモコン」には、サンプルのオリジナル・ラUNCH・マップ HTML ファイルが用意されています。以下の手順で実際にサンプルのオリジナル・ラUNCH・マップ HTML ファイルを試してみることができます。

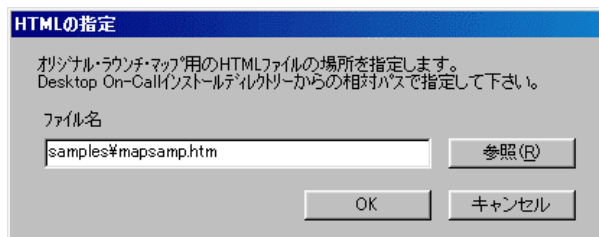
1. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - Desktop On-Call
「PCリモコン」を選択すると「PCリモコン」のプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。



4. 「オリジナル・ラUNCH・マップ」を選択してください。
5. 「指定」を選択してください。

6. 「ファイル名」の入力フィールドに、

samples#mapsamp.htm と入力して「OK」を押してください。



7. 「PCリモコン」のプロパティパネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。ホストPCでの設定はこれで完了です。ブラウザからアクセスしてください。次のページが表示されます。



このサンプルでは、地図にレイアウトされたサイトの教室やオフィスのページを開き、そこに配置されている PC にアクセスし、リモート・コントロールを行うというシナリオになっています。「A 事業所 教室」をクリックすると、教室サンプル

のページが表示されます。



PC 上にマウスポインターを置いてクリックしてください。アプレットがダウンロードされ、ユーザーID、パスワードを入力するとリモート・コントロール画面になります。

(この例では、すべての PC の絵は、その PC 自体(この例では My Main PC)にリンクされています。)

この教室サンプルの下方に「メインマップ」ボタンがありますので、スクロールし、「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B 事業所オフィス」をクリックしてください。



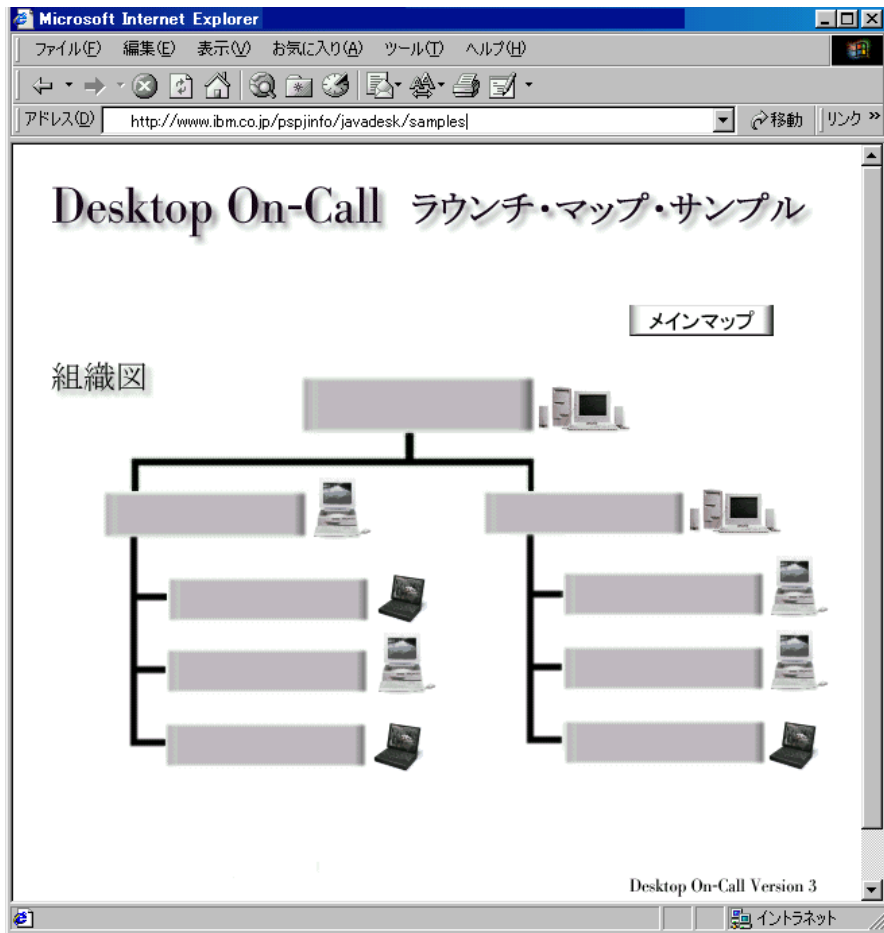
これは、オフィスの例です。

各スタッフの PC や、サーバー室にあるサーバー PC にアクセスできます。

(この例でも、すべての PC の絵は、その PC 自体 (この例では My Main PC) にリンクされています。)

「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B 事業所 組織図」をクリックしてください。



これは、組織図を使った例です。

(この例でも、すべての PC の絵は、その PC 自体 (ここの例では My Main PC) にリンクされています。)

カスタマイズした HTML ファイルをラウンチ・マップとして用いるとお客様の実環境に合致したリモート・コントロール環境が臨機応変に構築できることがご理解いただけたと思います。

このサンプル HTML のリンク先を別のアドレスに割り当てるには、HTML ソースコードの以下の部分を書き換えてください。

```
<AREA shape="rect" coords="2, 1, 3, 1" href="/index.htm" >
-->"http://2ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="3, 2, 1, 2" href="/index.htm" >
-->"http://3ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="1, 2, 2, 2" href="/index.htm" >
-->"http://4ndpc.dtoc.vvv.com"
```

/index.htm は、その PC 自体（この例では My Main PC）を意味しています。これを、例えば、http://2ndpc.dtoc.vvv.com など、実際の URL あるいは IP アドレスに書き直してください。


新規作成した HTML をラUNCH マップに割当てる

新規にお客様の実環境に適合した HTML を作成するには、ホームページ作成ツール「ホームページ・ビルダー」などを使って作成してください。

以下の手順にしたがって、ラUNCH・マップ・HTML ファイルとして割当ててください。

1. 作成した全てのファイルを、「PCリモコン」がインストールしてあるディレクトリー（通常は、C:\Program files\IBM\Desktop on-call）の下にコピーしてください。

注：Mac 版では、Desktop On-Call フォルダ ー中の programs サ ブフォルダ ー以下にコピーしてください。

2. ホストPCで、 - 「プログラム」 - 「PCリモコン」 - Desktop On-Call 「PCリモコン」を選択すると「PCリモコン」のプロパティのパネルが表示されます。
3. 「プロパティ」を選択してください。
4. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。
5. 「オリジナル・ラUNCH・マップ」を選択してください。



6. 「指定」を選択してください。
7. 「ファイル名」の入力フィールドに、作成したHTMLファイル名を入力して「OK」を押してください。
8. 「PCリモコン」のプロパティパネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。これで完了です。

リモートブラウジング専用版

リモート・ブラウジング専用版とは、デスクトップの状態をブラウザで見ることのできる監視のみ(View only)の機能だけに絞った「PC リモコン」です。セキュリティの観点から、監視目的のみ（操作はできない）で使いたい場合にインストールしてください。なお、インストール後は、設定等一切変更できません。

リモートブラウジング専用版の場合、手の形の指示ポインターがマウスポインターとは別に表示され画面の位置を指示することができます。



ゲスト PC から入力可能なイベント

マウス

- 全てのマウスイベント。
Altキーを押しながらのマウスイベントはサポートされません

キーボード

直接入力できるキー

- アルファベット(AからZ)(aからz)
- 数字(0から9)
- シンボル(!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~)
- Function キー (F1～F12、あるいはCtrl+1～0,-,^を使用した代用入力)
- スペシャルキー (Enter, BackSpace, Delete, Home, End, PageUp, PageDown, Left, Right, Up, Down, Esc, Tab, Space)

エミュレーション・キーによって入力できるキー

- Alt, Ctrl, Insert, 変換, 無変換, 半角/全角, 漢字,
- XFER, NFER, GRAPH, カナ(ホストPCがPC98の時のみ)
- Option, Control, command(ホストPCがMacの時のみ)
(2つのキーを同時に押すコンビネーションはサポートしていません)

出力可能な画面モード

ディスプレイ

以下のディスプレイ・モードで動作しているホストPCをリモート・コントロールできます。

- 640x480, 800x600, 1024x768, 1280x1024, 1600x1200画素
- 16色, 256色, 32K色, 64K色, 16M色

上記のモードをカラー/モノクロ4階調に色調整してゲストPC側に送られます。

カラーの場合は、16色が転送されます。256色情報を追加転送するには、「強制 256色転送」アイコンを押すか、プロパティパネル「アドレス時に 256色にする」を選択してください。

機能一覧

：新機能 ：機能強化

<p>リモートコントロール</p>	<p>ゲスト PC (コントロールする)側 Web ブラウザへ Java アプレット(コントロールプログラム)を接続時にダウンロード; 画面縮小機能(縮小時、画像アンチエイリアシング処理オプションあり) 画面色モード:白黒4階調 16色、256色追加転送 エミュレーションボタン: (共通ボタン:拡大、縮小、アンチエイリアシング ON/OFF、256色転送、マウス右/左切替、切断、ファイル転送) (106/109 キーボード:Alt、Ctrl、Ins、漢字、全角/半角、変換、無変換) (101/104 キーボード:英語版使用時:Alt、Ctrl、Ins) (NEC 98 キーボード:Ctrl、GRPH、漢字、かな、NFER、XFER、Ins) (Mac キーボード:control、option、コマンドキー) 拡張コネクトモード:セッション制御パネル、リモートコントロール・ウィンドウ (エミュレーションボタンを別枠表示)、ファイル転送ウィンドウ 基本コネクトモード:同一 Web ブラウザ内リモートコントロール、画面縮小機能なし、ファイル転送なし 自動始動:OS のブートと同時に接続待ち状態可(Windows NT ログオン対応) 自動壁紙解除:接続中のみ壁紙を解除 (Windows のみ)</p>
<p>セキュリティ機能</p>	<p>ユーザーID パスワード (独自暗号化) SSL 通信 (全通信データを暗号化) オプション ON/OFF (Macintosh なし) ユーザーID ごとのアクセス権限設定 管理者:プロパティの変更権限あり 一般ユーザー:ファイル転送機能の許可/非許可 (指示ポインター使用可) パスワードの有効期限設定 一回のセッションに制限時間を設定 アクセスできる IP アドレスを制限する機能 ホスト PC からの強制切断 アクセスログ</p>

ファイル転送機能 (Macintosh なし)	サインドアプレットによりファイルの送受信が可能 複数ファイル、ディレクトリーごとの送受信が可能
ラウンチマップ機能	<p>ホスト PC にアクセスすると登録済み PC の一覧が表示され、その中の PC の絵をクリックすることでアクセスできる機能。PC をラウンチマップに登録するには、名前、URL を設定する。</p> <p>オートラウンチマップ: サブネット内にブロードキャストし、ホスト PC のリストを表示、クリックすることで単機にアクセス。他サブネットの追加も可 (Macintosh なし)</p> <p>オリジナルラウンチマップ: オフィスやサーバールームのレイアウトをホームページビルダー等の HTML エディターで作成しラウンチマップとして利用することができる機能 (サンプルのオリジナルラウンチマップ: メインマップ、教室マップ、オフィスマップ、組織図マップ)</p>
オートアップデート機能	ホスト PC の「PC リモコン」が最新かどうかを判定し、アップデートモジュールが提供されている場合には、それを適用して最新に保つことが可能。 (Macintosh なし)
接続ウィザード機能	ホスト PC 側のネットワーク環境がセットアップされているかを確認されている場合には、セットアップ方法をガイド (Windows のみ)

第5章 設定パネル

この章では、ホストPCで設定可能なパネルについて簡単に説明します。

メインパネル



休止中

接続許可を押す

待機中

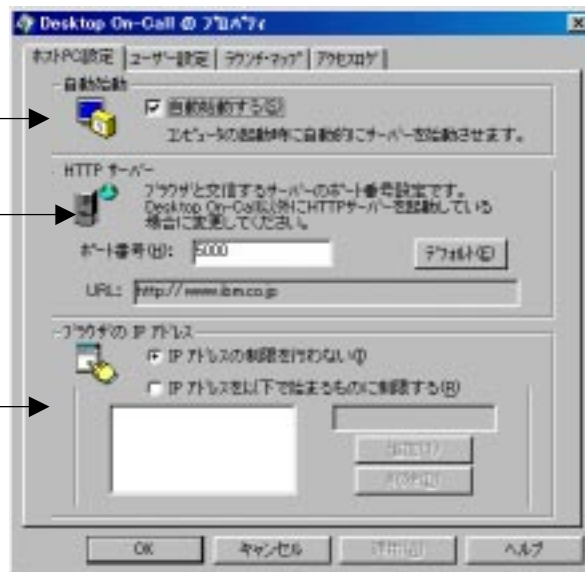
ブラウザからアクセスがあり、セッション確立

接続中

「閉じる」を押すとこのパネルを閉じます。パネルは閉じても「PC リモコン」は終了しません。

プロパティパネル

ホスト PC 設定



自動始動

選択するとコンピュータの起動と同時に「 PC リボン待機中状態にします。

HTTPサーバー

ホスト PC のポート番号を設定することができます。通常インターネットのホームページなどにアクセスする場合のポート番号は 80 です。

ホスト PC をインターネットホームページサーバーとして使用している場合は、ポート番号が重複してしまいます。これを避けるため「 PC リボン初期アクセス用のポート番号を (5000-65535)指定します。例えば、5000 を指定した場合は、IP アドレスの後に :5000 を付けてアクセスします。

アクセスを許す IPアドレスを設定

ホスト PC にアクセスできる IP アドレスを制限したい場合このように許可する IP アドレスを指定することができます。「 IP アドレスを以下で始まるものに制限する」を選択しアクセス

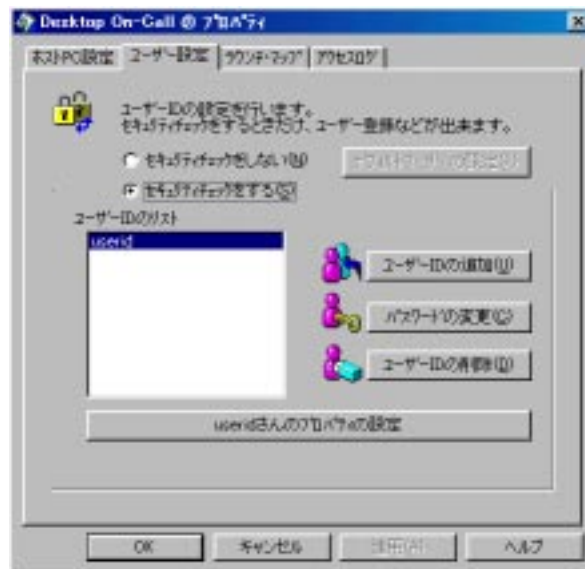
を許す IP アドレス を追加することにより、その 他 IP アドレス から の アクセス を制限でき
ます。

例1 アクセスを許す IP アドレス を 10.10.10.1, 10.10.10.2, 10.10.10.3 の 3 に 制限する。
3 の 全 て の IP アドレス を入力し追加 ボタンを 選 択して 順 に 追加して ください。

例2: 10.10.10.1 ~ 10.10.10.255 の IP アドレス の みアクセスを許す。

10.10.10 と入力し追加 ボタンを 選 択して 順 に 追加して ください。

ユーザー設定



「セキュリティを強化しない」を選んだ場合、ログインパネルは表示されず、リモート
ロール画面になります。

「セキュリティを強化する」を選んだ場合、必ず 1 つ以上のユーザーIDを登録してください。

個々のユーザーIDごとあるいは省略値のプロパティを設定することができます。

個々のユーザーIDごとのプロパティを設定する場合は、ユーザーIDを 選 択し「**このユーザーIDのプロパティを設定**」を選んでください。省略値のプロパティを設定する場合は、「**デフォルトユーザーの設定**」を 選 択して ください。

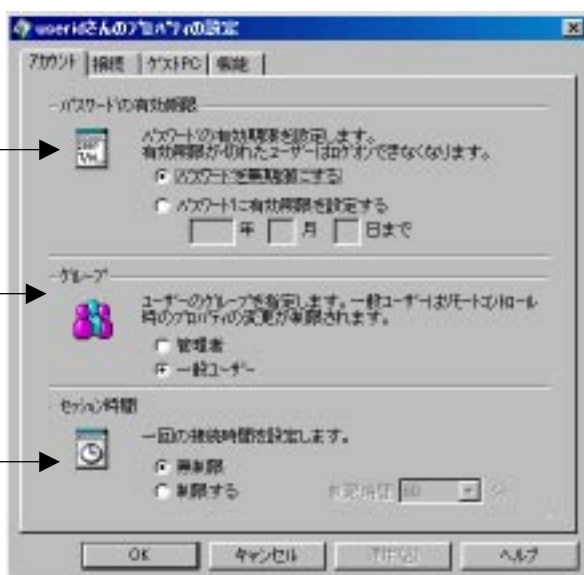
アカウント

- パスワードの有効期限

タイトル・バーのユーザーID のパスワードを設定することができます。「パスワードに有効期限を設定する」を選択し、期日を入力してください。

- グループ

「管理者」あるいは、「一般ユーザー」を選択します。管理者は、リモートからプロパティの変更を行う権限を可に設定できます。



- セッション時間

一回のセッションに制限時間を設定できます。「制限する」を選択し制限時間を選んでください。

接続

- SSL
選択すると SSL 通信が ON になります。



- 自動壁紙解除
壁紙が設定されていると、壁紙イメージを毎回送るので通信データ量が増えます。
「壁紙を自動解除する」を選択するとリモートコントロール時に壁紙を解除します。

- 接続表示
「接続表示ウィンドウを最小化」を選択するとリモートコントロール開始時、接続表示ウィンドウを最小化状態で表示します。

ゲスト PC

- 主に使用するブラウザ

ブラウザによって、色が不自然なことがあります。その場合、主に使用するブラウザのリストから適合すると思われるものを選んでください。



- ブラウザ画面の表示色

カラーが選択されていると画面の色は 16 色に減色されてブラウザに転送されます。アイドル時に 256 色にするを選択すると、マウス入力キー入力画面変化が検出されないアイドル状態になると 256 色情報が追加転送されます。

- 画面の縮小

コントロールする側の画面の方が狭い場合、画面を縮小するとブラウザ下方の を選択すると縮小します。全体がブラウザ内に入り操作しやすくなります。しかし単純に縮小すると文字等が読めなくなってしまうので、アンチエイリアスをかけるを選択しておくことで滑らかに縮小され見やすい画面になります。

機能

- ファイル転送

チェックマークを取るとファイル転送は禁止されます。

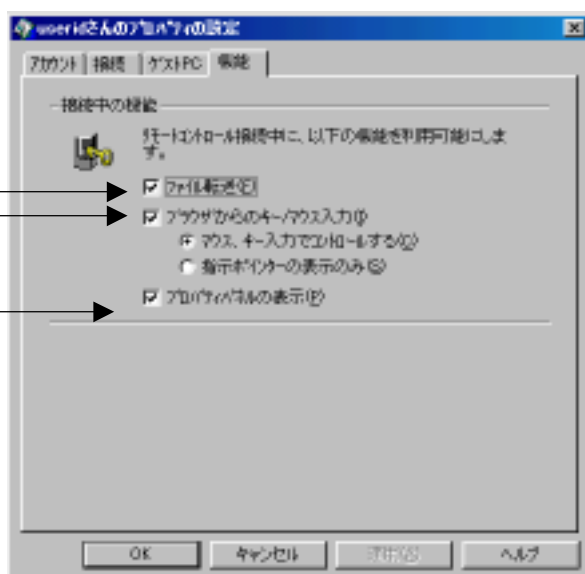
- ブラウザからのキー/マウス入力

チェックマークを取るとリモートからの一切の操作はできなくなります。監視のみの機能となります。

指示ポインタを選択すると手の形のもう一つのポインタを表示し位置を指示できます。

- プロパティパネルの表示

リモートからPCリモコンのプロパティを変更したくない場合、このチェックマークを取ります。



ラUNCHマップ

ホストPCの動作

リモートコントロールラUNCHマップを表示せず、直接リモートコントロールを開始する。

ラUNCHマップ標準のラUNCHマップを表示する。

オートラUNCHマップオートラUNCHマップを表示する。

オリジナルラUNCHマップオリジナルラUNCHマップを表示する。



アクセスログ

アクセスログを表示する。



第6章 注意事項

この章では、「PC リモコン」を使用する上で、ヒントとなる技術情報、トラブル回避方法などを説明します。

技術情報

ゲストPCが Mac OS で使用するとき

ブラウザのメモリー必要条件を変更する

1. ブラウザのアイコンを選択する
2. 「ファイル」を選択する
3. 「情報を見る」-「メモリー」を選択する
4. 最小サイズ、使用サイズをそれぞれ、8000K～12000Kにセットしてください。

仮想メモリーを増やす

1. 「コントロールパネル」-「メモリー」を選択する。
2. 仮想メモリーを「入」を選択し 100M以上の十分なサイズを指定してください。

Internet Explorer

Mac OS 付属の Internet Explorer で使用するときには、RMJ(Mac OS Runtime for JAVA) をインストールしてください。最新の MRJ2.1.1 以上をお使いください。

Netscape Communicator

システムフォルダの中の機能拡張フォルダに Netscape Communicator [付属の Java Accelerator for PowerPC](#) をドラッグ&ドロップに入れてください。

マルチ・ディスプレイについて

Windows 98 のマルチ・ディスプレイ機能は、「PC リモコン」は、サポートしていません。

全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法

「PC リモコン」は全画面表示をサポートしていません。全画面表示になってしまったときは、以下の方法で対処してください。

Windows 95/98 **および** Windows NTの場合

Alt + Enter を押してください。

OS/2 Warpの場合

Ctrl + Esc を押してください。

ゲストPCから日本語入力をする

ゲストPCの日本語入力システムをオフにしてください。

ホストPCコントロール画面にあるホストPC側のデスクトップの日本語入力システムをオンにしてください。

ホストPC側日本語入力のオン/オフの切り替えは、ホストPC・コントロール画面の[漢字]エミュレーション・キーをクリックすることにより行うことができます。

ホストPCが OS/2 Warp 3.0 上で動作している場合、ローマ字モードをオンにするには、コマンドプロンプトから [setroman on] と入力します。ローマ字モードをオフにするには [setroman off] と入力します

リモートから漢字入力をしている場合、エミュレーション・キーの変換を用いるよりスペースキーを変換キーとして用いると便利です。(ただし、お使いになっているかな漢字変換プログラムによっては、スペースキーが変換に割り振られていない場合もあります。)

リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける

ディスプレイモードのブラウザからの変更はテスト用ビットマップの表示がうま

くでないことがあります。また回線スピードの関係で、ダイアログからの問いに対してタイムアウトで答えられないこともありますので、あまりお勧めできません。

ブラウザに表示される画面に縦横の色むらが表示される

「PC リモコンのプロパティ」の「ゲスト PC」ページで設定する「主に使用するブラウザ」として、現在使用中のブラウザが正しくセットされていますか。これが異なる場合には、色むらが発生する場合があります。なお、この設定を変更した場合には、ブラウザから再ログインしてください。Netscape を 16 色や TRUE カラーで使用している場合は、その他を選択してください。

既にユーザーXXXX にコントロールされていますと表示される

ゲスト PC 側のブラウザのリロードボタンを押すと、「このマシンは既にユーザーXXXX にコントロールされています。」と表示されてしまう場合は 再度リロードボタンを押してください。

「TCP/IP がインストールされていません」と表示される

Windows 95/98 あるいは NT に TCP/IP が正しくインストールされていません。Windows のマニュアルに従って、TCP/IP を正しくインストールして下さい。

「DHCP サーバーと接続できない」 IP Address を取得できないと表示される

「PC リモコン」は、DHCP サーバーから IP アドレスを動的に割り振られる環境でも正しく動作します。しかし DHCP サーバーが正しく動作していなかったり、もともと DHCP サーバーがないのに DHCP サーバーから IP アドレスを取得する設定になっている場合に、「PC リモコン」を起動したとき、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

「DHCP サーバーと接続できません。 IP アドレス を指定して下さい。詳しくは マニュアルを参照して下さい。」 あるいは「PC リモコン」のメイン画面の URL アドレス欄に、「 IP Address を取得できません」

DHCP サーバーがないのに DHCP サーバーから IP アドレスを取得する設定になっていませんか。以下をチェックしてください。

Windows 95/98 の場合:

「コントロールパネル」 -> 「ネットワーク」 -> 「ネットワークの設定」 -> 「TCP/IP」 -> 「IP アドレス」の設定が「自動的に IP アドレスを取得」になっていませんか。

Windows NT の場合:

「コントロールパネル」 -> 「ネットワーク」 -> 「プロトコル」 -> 「TCP/IP」 -> 「IP アドレス」の設定が「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」になっていませんか。

これらが設定されていて、ダイヤルアップでプロバイダに接続していない、DHCP サーバが無効であるなどの場合、サーバーに IP アドレスが割り振られていないため、このようなメッセージが表示されます。正しく IP アドレスがセットされている環境でご使用ください。

ブラウザに URL を指定しても反応がない

「PC リモコンサーバーの状況」が「待機中」になっているか確認してください。

「Java.Lang.OutOfMemoryError」と表示して止まる

ゲスト PC 側のマシン上でホスト PC 画面を表示するための十分なメモリが確保できていません。次のいずれかの方法を試してみてください。

- ゲスト PC マシンのスワップ領域 (Windows 95/98 の場合は C ドライブの残り容量) をハードディスク上に十分に確保する。
- ゲスト PC マシンの画面モードが 32K 色表示モード以上の場合は、256 色表示モードにする。
- ホスト PC マシンの画面解像度を落とす。
- ゲスト PC マシンのメモリを増設する。

IE 使用時 スクロールバーを使用すると画面表示が乱れることがある

もう一度、スクロールし直す。あるいはブラウザのウィンドウを一端最小化し、

復帰させて画面を更新させてください。

動画再生ウィンドウが正しく表示されないことがある

QuickTime などの動画再生プログラムによって表示される動画エリアが正しく表示されないことがあります。

その他、最新情報は、Readme.txt 又はホームページを参照してください

用語集

SSL	Secure Socket Layer
エミュレーション ボタン	Alt キーやCtrl キーなどゲスト PC 側で機能してしまうキー、漢字キーなど Java でサポートされていないキーをボタンとしてサポートしたものの
オートアップデート	Desktop On-Call のホームページに最新モジュールを用意しています。この機能により最新かを確認、最新モジュールを適用することができます。
オートラUNCH マップ	サブネット内をブロードキャストし、自動的に「PC リモコン」がインストールされたマシンのマップを作る機能
オリジナルラUNCH マップ	標準ラUNCH マップの代わりに、自ら作成した HTML をラUNCH マップとして使用する機能
拡張コネクトモード	拡張機能(複数ウィンドウ SSL通信 ファイル転送)を使用できるモード。Java スクリプト 1.2、liveConnect、JDK 1.1 以上が必要
基本コネクトモード	リモートコントロールのみのモード
ゲスト PC	コントロールする側のマシン。Javaブラウザが必要
接続ウィザード	Windows のネットワーク設定のお手伝いをします。
ネットワークカード経由	イーサネットやトークンリングのようなネットワークカードを経由してリモートコントロールを行う
ホスト PC	「PC リモコン」がインストールされ、コントロールされる側のマシン。
モデム経由	モデムを経由してリモートコントロールを行う
ラUNCH マップ	複数の「PC リモコン」がインストールされたマシンにアクセスする際、マシンをマップ上に配置しアクセスしやすくしたマップ機能
リモートブラウジング専用版	ホストPCの画面を見るだけで、操作できないバージョン
指示ポインター	手の形のもう一つのポインターで位置を指示することができます。
指定ブロードキャストアドレス	オートラUNCH マップで現サブネット以外に指定ブロードキャストアドレスを追加することによってブロードキャストするサブネットを追加することができます。

商標

IBM, Aptiva, ThinkPad, OS/2, Desktop On-Call、PC リモコン、ホームページ・ビルダーは、IBM Corp.(米国)の商標です。

Java は、Sun Microsystems, Inc(米国)の商標です。

Apple, Mac, Macintosh, PowerMac は、Apple Computer Inc, (米国)の商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited がライセンスしている米国ならびに他の国における商標です。

Microsoft, Windows, Windows NT は、Microsoft Corp.(米国)の商標です。

製品名または会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この「プログラム」は、RSA Data Security, Inc. からライセンスされた機密保護技術を含んでいます。

この技術は、以下の著作権表示とともに同社からライセンスされたソフトウェアにより提供されます。

Copyright (c) 1998 RSA Data Security, Inc. All Rights Reserved.

特記事項

本書で言及される IBM[®]製品、プログラム、またはサービスのなかには、日本で発売されていないものも含まれます。このことは、弊社がこれらの IBM 製品、プログラム、またはサービスを、日本で発売する意図があることを示すものではありません。

本書で、IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、該当製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、又はサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

本書で解説される主題について IBM がその特許権（特許出願を含む）を所有していることがあります。本書は、これらの特許権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权の照会は、下記の宛先に書面にて行ってください。

〒106-8711

東京都港区六本木 3-2-31

IBM ワールド アジア トレードコーポレーション

コマーシャル リレーションズ